

申請者	長崎県 (対馬市、壱岐市、 五島市、新上五島町)	タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
タイトル			
国境の島 壱岐・対馬・五島 ~古代からの架け橋~			
ストーリーの概要(200字程度)			
<p>日本本土と大陸の中間に位置することから、長崎県の島は、古代よりこれらを結ぶ海上交通の要衝であり、交易・交流の拠点であった。</p> <p>特に朝鮮との関わりは深く、壱岐は弥生時代、海上交易で王都を築き、対馬は中世以降、朝鮮との貿易と外交実務を独占し、中継貿易の拠点や迎賓地として栄えた。</p> <p>その後、中継地の役割は希薄になったが、古代住居跡や城跡、庭園等は当時の興隆を物語り、焼酎や麺類等の特産品、民俗行事等にも交流の痕跡が窺える。</p> <p>国境の島ならではの融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と交流が続くこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域である。</p>			
担当者連絡先			
担当者氏名	長崎県文化観光国際部文化振興・世界遺産課歴史文化班 矢島 貴子		
電話	(095) 895-2762	FAX	(095) 829-2336
E-mail	kokkyonoshima@pref.nagasaki.lg.jp		
住所	〒850-8570 長崎県長崎市尾上町3番1号		

市町村の位置図（地図等）



国土地理院の電子地形図に市町名等を追記して掲載

【対馬市】

韓国・釜山から 49.5km に位置し、南北 82km、東西 18km の細長い島。島の 89% が山林で、中央部にリアス式海岸の浅茅湾を有する。島内を国道 382 号が縦断し、長崎とは空路、壱岐とは海路、福岡とは空路と海路、釜山とも海路で結ばれている。

【壱岐市】

九州本土と対馬の間に位置し、南北 17km、東西 15km の丘陵性で平坦な壱岐島の周囲に、小離島が点在する。壱岐島内を国道 382 号が走り、長崎とは空路、対馬・福岡・佐賀とは海路で結ばれている。

【五島市】

長崎港から西へ約 100 km、五島列島の南西部、九州の最西端に位置し、福江島の周囲に 10 の有人島と 52 の無人島がある。複雑な海岸線を有する福江島内をほぼ一周するように、国道 384 号が走り、長崎・福岡とは空路と海路で結ばれている。

【新上五島町】

五島列島の北部に位置し、中通島・若松島を主な町域とし、その周辺に 5 の有人島と 60 の無人島がある。中通島と若松島間、中通島と頭ヶ島間は橋が整備され、中通島内の奈尾尾港から有川港までを国道 384 号が縦断し、長崎・佐世保・福岡とは海路で結ばれている。

構成文化財の位置図（地図等）

【対馬市】



国土地理院の電子地形図に文化財名等を追記して掲載



国土地理院の電子地形図に文化財名等を追記して掲載

【壱岐市】



国土地理院の電子地形図に文化財名等を追記して掲載

【五島市・新上五島町】



国土地理院の電子地形図に文化財名等を追記して掲載

(2) 遣唐使史跡 (3) 伝教大師最澄ゆかりの山王信仰



国土地理院の電子地形図に文化財名等を追記して掲載

ストーリー

日本は大小14,125の島から成り、長崎県には日本最多の1,479の島がある。朝鮮半島との間に飛び石のように浮かぶ壱岐と対馬、大陸との間の東シナ海に鎖状に浮かぶ五島列島は、いにしえより、日本と大陸を結ぶ「海の道」の要衝であり、大陸との交流のインターフェースでもあった。とりわけ、朝鮮半島と指呼の間にある国境の島、壱岐と対馬は、その最前線であった。

邪馬台国へと続く「海の道」に浮かぶ国際交流の都

日本がまだ「倭」の国とよばれていた時代、中国の使節は、朝鮮半島から対馬、壱岐を經由して、倭の国の女王がいる邪馬台国を目指した。対馬、壱岐を旅した中国の使節の足跡を辿るとき、『魏志倭人伝』に記されたとおりの原風景が目の前に広がる。

中国の使節が訪れた「^{いぎこく}一支国」の「原の辻」は、海上交易で王都を築いた国際交流都市の先駆けであった。倭の国のどこよりも早く海外の情報をキャッチできる原の辻には、日本人だけでなく、朝鮮半島から移り住んだ人もいて、活気に満ちあふれていた。

朝鮮半島系土器、ムククの『叫び』のような人面石など多様な遺物が出土しているこの地は、まさに弥生時代のデパートであった。なかでも、きらきらと青色に輝く中国製トンボ玉は、女性や子どもたちの心を捉えたに違いない。

県内有数の穀倉地帯でもある遺跡の周辺は、古代米が栽培されており、復元された遺跡と青田や稲穂が広がる眺めは、訪れた人を弥生時代へタイムスリップさせてくれる。



原の辻遺跡

朝鮮半島との関係に左右される日本最果ての島

最先端の文化の導入と交流が行われる一方、国境の島は異国へとつながる海の道の最終中継地、国防の最前線としての顔を持つ。

壱岐は、大和政権が朝鮮半島へ進出する際の^{へいたん}兵站基地としての役割を担っていた。壱岐古墳群は、当時としては日本有数の墳丘・石室の規模を誇っており、ひんやりと涼しい石室の中に身を置くと、古墳に眠った人物の権勢が静かに伝わってくる。

663年、白村江の戦い以降、日本と新羅との外交関係が悪化すると、遣唐使は、壱岐、対馬を経て中国に渡るルートから、五島列島を経て東シナ海を渡る危険なルートをとらざるをえなくなった。

当時の船の構造、航海技術では、ほとんど無事には帰ってこられなかった時代、万葉の都人にとって五島は、日本の最果ての地であり、亡くなった人に会える「みみらくのしま」と称された。

千年以上も昔と変わらぬ東シナ海の大海原を目の前にすると、この地を最後に異国へと旅だった人々と送り出す家族の覚悟や想い、弘法大師空海の「辞本涯」(本涯 = 日本の果て)の言葉が、時代を超えてこだまする。



金田城跡の山頂から国境の海を望む

一方、壱岐と対馬でも、白村江の戦い後、国防のために^{さきもり}防人と^{とびひ}烽火が置かれ、対馬には亡命百濟

人の技術による朝鮮式の山城「金田城」も築かれた。

複雑に入り込んだ海岸に囲まれた浅芽湾と天然の絶壁を利用して築かれた金田城跡に立ち、国境の海を見下ろすと、はるか東国から送られてきた防人たちの望郷の念に胸がつまる。

国交断絶から復活へ ～朝鮮通信使がつないだ日朝交流の架け橋～



朝鮮通信使行列の再現

室町時代の対馬は、島主・宗氏を中心に日本と朝鮮との間で外交の実務と貿易を独占してきたが、豊臣秀吉の朝鮮出兵により一変し、国交は断絶した。長年、朝鮮との貿易に島の経済を頼ってきた対馬にとって、朝鮮との国交回復、貿易復活は死活問題であった。対馬藩は、朝鮮との国交回復交渉を行い、その間、日朝双方の国書を偽造するなど危ない橋を渡りながら、ようやく江戸時代最初の朝鮮通信使来日に成功する。その後、朝鮮貿易の復活も

果たし、対馬藩の繁栄ぶりは万松院に古色蒼然と並ぶ歴代対馬藩主墓所の中でも、ひときわ目を引く当時の藩主の墓所の巨

大さからも偲ばれる。

以来、約200年に渡り、合計12回の日朝修好の象徴である朝鮮通信使の来日が続いた。

朝鮮通信使を丁重に出迎えるため、立派な庭園を持つ金石城を整備した対馬藩。異国の華やかな衣装をまとった行列は、遠方からも見に来る人も多く、沿道に並ぶ人々を魅了した。

隣国同士が200年以上の長きに渡り、平和的關係を築いたことは世界史的にみても稀有なことである。時に反目し合うこともあったが、日朝關係の根底には「誠信の交わり」があった。

享保の通信使の江戸往復道中、対馬藩の儒者・雨森芳洲と通信使の製述官・申維翰は互いの主張を譲らず衝突してきたが、旅の終わりには涙を流して別れを惜しんだ。

「互いに欺かず、争わず、真実をもって交わる」の精神は、今日の国際交流にも通じる。

時代とともに、壱岐と対馬の中継地としての役割は希薄になっていったが、島の特産品や民俗行事には、交流の痕跡が残っている。

壱岐の特産品「壱岐焼酎」は、大陸から伝わったとされる蒸留法を取り入れ、今では世界に誇れる産地ブランドとなっており、五島の特産品である「五島うどん」は遣唐使が伝えたといわれる。対馬の「対州そば」は大陸から伝わったそばの原種に近く、また、対馬から朝鮮半島にサツマイモが伝わったことから、韓国語のコグマ(サツマイモ)は、対馬の「孝行芋」が語源となっている。これらの食文化の中に大陸との交流をみることができる。

また、稲作伝来の地といわれている対馬の豆酸地区は、宮中祭祀「新嘗祭」にも奉納したことがある古代米の一種、赤米を神田で栽培し、その赤米を御神体とする神事が行われており、亀の甲を焼いて吉凶をみる古代の占い「亀卜」もこの地区で受け継がれている。

民間では、朝鮮通信使行列の再現をはじめ、音楽祭、国境マラソンなど様々な日韓交流イベントが行われている。対馬高校ではハングルや韓国文化を学ぶコースが設置され、壱岐高校においても、原の辻遺跡を学び、中国語・中国文化を学ぶコースがあり、未来の日本を担う高校生が国際交流の基礎を習得している。

国境の島であるために融和と衝突の最前線の歴史を刻んできたが、今もなお連綿と交流が続くこれらの島は、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域である。

ストーリーの構成文化財一覧表

《対馬市》

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状況 (2)	ストーリーの中の位置づけ (3)	文化財の所在地 (4)
1	かねだじょうあと 金田城跡	国特別史跡	唐や新羅の日本進攻を防ぐ目的で築かれた朝鮮式山城跡。山深い城山の頂からは、1300年以上前に防人が見つめていた国境の海が一望できる。	対馬市
2	つしま きぼくしゅうぞく 対馬の亀卜習俗	国選択 無形民俗	亀の甲を焼き、ひび割れで年の吉凶を占う。大陸から朝鮮半島を経て伝わったといわれ、古くは壱岐や伊豆でも行われていたが、今では対馬のみで伝承されている。現在、亀卜は旧暦1月3日のサンゾーロー祭(市無形)で行われている。	対馬市
3	つ つ あかごめぎょうじ 豆敷の赤米行事	国選択 無形民俗	豆敷地区は、大陸から稲作が伝わった地といわれており、古くから、赤米を祀り、栽培する行事が行われている。	対馬市
4	つしまはんしゅうそうけぼしよ 対馬藩主宗家墓所	国史跡	江戸時代、朝鮮半島との外交・貿易の実務を担った対馬藩宗家の菩提寺「万松院」として市民に親しまれ、百雁木(ひやくがんぎ)と呼ばれる132段の石段や杉が立ち並び、壮大な墓地と墓石が、朝鮮貿易の興隆を反映している。	対馬市
5	ばんしょういん みつづくそく 万松院の三具足	市有形	朝鮮との緊密さがわかる朝鮮国から贈られた青銅製の祭礼用三具足(香炉、燭台、花瓶)で、万松院の本堂にある。	対馬市
6	どうぞうによらいざぞう 銅造如来坐像 くろせかんのんどう (黒瀬観音堂)	国重文	統一新羅時代(8世紀)のもので、朝鮮半島経由で伝わったとされる。地元では、女神(おんながみ)さまといわれ、安産の神様としても信仰されている。	対馬市
7	しみずやまじょうあと 清水山城跡	国史跡	豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に築かせたとされる駅城で、一の丸から三の丸まであり、遺構もよく残っている。	対馬市
8	かねいしじょうあと 金石城跡	国史跡	対馬藩宗家の居城跡とその庭園。ここで朝鮮通信使一行を出迎えたといわれている。	対馬市
9	きゅうかねいしじょううていえん 旧金石城庭園	国名勝		

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状況 (2)	ストーリーの中の位置づけ (3)	文化財の所在地 (4)
10	ちょうせんこくしんしえまき 朝鮮国信使絵巻	県有形	朝鮮通信使の行列の様子を色彩豊かに描いており、当時の姿を彷彿とさせる。	対馬市
11	つしまはん ふなえあと 対馬藩お船江跡	県史跡	対馬藩の藩船を格納、係留したドック跡。朝鮮貿易を担う対馬藩にとって、船は重要な交通手段であり、ここから釜山など各方面へと航海に出た。	対馬市
12	佐須奈港 (佐須奈日向改番所跡)	未指定	朝鮮往還の玄関口として古代より栄えた良港で、朝鮮通信使上陸の地である。江戸時代には対馬藩主宗義真により日向と陰の2カ所の改番所が設置され、密航者や密貿易の取り締まりが行われた。日向番所は石垣や井戸が現在でも残存し、当時をしのばせる。また、この地より「孝行芋」(サツマイモ)が朝鮮半島に伝わったともいわれている。	対馬市
13	鱈浦 (朝鮮通信使寄港地、 ヒトツバタゴ自生地)	未指定 (ヒトツバタゴ自 生地は国天然 記念物)	古くより朝鮮半島との通交貿易の窓口となった朝鮮通信使上陸地の一つ。港の西側には朝鮮通信使の停泊地といわれる矢櫃があり、現在でもその石積を見ることができる。 古代より大陸への窓口であった対馬を象徴する大陸系植物、ヒトツバタゴ自生地でもある。	対馬市
14	こうこいも 孝行芋 (せんだんご、対馬ろく べえ)	未指定	民間伝承には、「対馬藩土原田三郎右衛門が門外不出であった唐芋(サツマイモ)を薩摩から命がけで持ち帰り、食糧不足の対馬は救われた、これは大変な島への孝行である、ということから孝行芋(こうこいも・こういも)と呼ばれるようになった」と伝わる。一方、記録では正式なルートで対馬藩が入手した唐芋を原田三郎右衛門が伊奈郷久原村に植付けたところ豊作となり、その手法を島内に広めたとある。 宝暦14(1764)年第11回朝鮮通信使正使であった趙曦が、対馬藩から孝行芋をもらい、食糧難にあえぐ朝鮮国に持ち帰った。これがきっかけで朝鮮では本格的に孝行芋が栽培されるようになった。 現在でもサツマイモを表す韓国語は、孝行芋の音が変化した「コグマ」であり、孝行芋は近世の日朝交流を物語るものである。 対馬では、サツマイモを発酵させてでんぷん質だけを取り出してつくる伝統的な保存食である「せんだんご」や、それを麺状にした「対馬ろくべえ」が残る。	対馬市

《壱岐市》

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状況 (2)	ストーリーの中の位置づけ(3)	文化財の所在地(4)
1	はる つじいせき 原の辻遺跡	国特別史跡	弥生時代の環濠集落跡で、『魏志倭人伝』に記された一支国の王都。弥生時代、海外交易の拠点として大いに栄えた。	壱岐市
2	ながさきけんはる つじいせきしゅつどひん 長崎県原の辻遺跡出土品	国重文	朝鮮半島系土器など交流・交易を物語る遺物が多く出土している。	壱岐市
3	い き こふんぐん 壱岐古墳群	国史跡	6世紀後半から7世紀前半に築造された古墳群。首長クラスの古墳の石室からは、大陸や朝鮮半島の国々から認められていたことを物語る多くの遺物が発見されており、それらの国々と精通した有力者の存在がわかる。	壱岐市
4	ながさきけんささづかこふんしゅつどひん 長崎県笹塚古墳出土品	国重文	亀形飾金具・杏葉・雲珠などの金銅製の馬具類が出土しており、朝鮮半島系の外来土器、鳳凰を表現した環頭大刀柄頭は韓国の古墳からも同形の柄頭が出土されるなど、交易・交流が活発であったことを物語っている。	壱岐市
5	ながさきけんそうろくこふんしゅつどひん 長崎県双六古墳出土品	国重文		壱岐市
6	かつもとじょうあと 勝本城跡	国史跡	豊臣秀吉が朝鮮出兵の際に築かせたとされる駅城。本丸を取り囲む石垣と、本丸への出入り口部分が残っており、天気がいい日には、彼方の対馬を望むことができる。	壱岐市
7	うちめわん 内海湾	未指定	一支国と大陸を行き交う古代船が湾に停泊し、小舟に乗り換えて人や物を原の辻へ運んでいた。内海湾に浮かぶ小島は、現在、神が宿る島と呼ばれている。	壱岐市
8	たけ つじ 岳ノ辻	未指定	壱岐の最高峰(212.8m)で、島全体の3/4を見渡すことができ、古代から防衛の拠点で、烽火台があったといわれている。	壱岐市
9	カラカミ遺跡 いせき	市史跡	弥生時代の環濠集落跡。交易を通じて鉄製品や鉄素材等を入手し、国内各地に鉄製品を供給する中継基地で、弥生時代を代表する鉄器生産の鍛冶工房でもあったこの地は、東アジア交易で重要な役割を果たしていた。	壱岐市

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状 況 (2)	ストーリーの中の位置づけ (3)	文化財の所 在地 (4)
10	なまいけじょうあと 生池城跡	市史跡	16 世紀中頃松浦党の源吉(みなとのいち)が築いた山城。朝鮮や中国沿岸で私貿易を行った倭寇の一人であったが、後に朝鮮から貿易許可書である図書を受け、正式に貿易を行った。	壱岐市

《五島市》

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状 況 (2)	ストーリーの中の位置づけ (3)	文化財の所 在地 (4)
1	三井楽(みみらくのしま)	国名勝	五島市三井楽町の海岸域及び海域。日本最西端である五島は、遣唐使船の最終寄港地であるとともに、「亡き人に逢える島」「異国との境界にある島」ともいわれている。	五島市
2	<small>みょうじょういんほんどう</small> 明星院本堂	県有形	五島で最も古い寺といわれ、弘法大師空海が唐から帰朝する途中でこの寺に籠り、明星院と名付けたといわれている。	五島市
3	ともづな石	市史跡	五島市岐宿町の白石湾は、古来遣唐使船が最後に停泊した港であり、遣唐使船を繋いだという「ともづな石」が安置・祀られている。	五島市
4	<small>だいほうじ</small> 大宝寺	未指定 (建造物)	唐から帰国した弘法大師空海がここで真言密教を説いたという伝承があることから「西の高野山」ともいわれている。日本の一番西に位置し中国に近い玉之浦のこの寺には、関西や大陸との交流を物語る南北朝時代の五重の層塔(市有形)や梵鐘(県有形)が保存されている。	五島市

《新上五島町》

番号	文化財の名称 (1)	指定等の状況 (2)	ストーリーの中の位置づけ (3)	文化財の所在地 (4)
1	ひのしま せきとうぐん 日島の石塔群	県史跡	40基以上の墓碑・墓石がある中世古墓群。大陸との交易品を若狭湾に運び、帰りの船にバラストとして日引石の石塔を持ち帰ったともいわれ、海上交易の拠点だったと考えられている。	新上五島町
2	けんとうしせき 遣唐使史跡 ひめじんじゃあと いし (姫神社跡、ともじり石、 ひめじんじゃ きんぼ ぜ 姫神社、錦帆瀬、 みかのうら みふねさま 三日ノ浦、御船様)	未指定 (御船様は町指定)	新上五島町には、遣唐使が風待ちをした場所や、航海安全を祈願した神社等が点在し、大陸との交流の足跡がみられる。	新上五島町
3	伝教大師最澄ゆかりの山 王信仰 (山王山、雄嶽白枝神社 の報賽鏡、青方神社)	未指定 (山王山は西 海国立公園 雄嶽白枝神社 の報賽鏡は 町指定)	山王山は伝教大師最澄が遣唐使の航海安全を祈願し、無事帰国後、山王神を勧進し開いたといわれる。中腹にある二ノ宮の岩窟内には鎌倉時代から江戸時代にかけて作成された鏡(報賽鏡)が奉納され、その中には宋代と元～明代の舶載鏡二面が含まれることから、山王信仰が中世・近世を通じて断続的に行われてきたことや、大陸との交流の足跡をみることができる。青方神社は古名を山王宮と称し、山王山の遥拝所であったといわれている。	新上五島町
4	ごとう 五島うどん	未指定 (民俗技術)	五島うどんは小麦粉と塩と水で練り込み、縄をなうように紐状に伸ばして麺にし、乾燥させた乾麺をいう。遣唐使航海時代に中国から寄港地であった五島に伝えられたといわれている。	新上五島町

- (1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
- (2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。
- (3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
- (4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

対馬市

(1) 金田城跡



(4) 対馬藩宗家墓所



(2) 対馬の亀ト習俗



(5) 万松院の三具足



(3) 豆酏の赤米行事



(6) 銅造如来坐像(黒瀬観音堂)



(7) 清水山城跡



(11) 対馬藩お船江跡



(8) 金石城跡



(12) 佐須奈港(佐須奈日向改番所跡)



(9) 旧金石城庭園



(13) 鰐浦(朝鮮通信使寄港地、ヒトツバタゴ自生地)



(10) 朝鮮国信使絵巻



(14) 孝行芋

(14) - 1 孝行芋



(14) - 2 せんだんご



(14) - 3 対馬ろくべえ



吉崎市

(1) 原の辻遺跡



(4) 長崎県笹塚古墳出土品



(2) 長崎県原の辻遺跡出土品



(5) 長崎県双六古墳出土品



(3) 吉岐古墳群



(6) 勝本城跡



(7)内海湾



(10)生池城跡



(8)岳ノ辻



(9)カラカミ遺跡



五島市

(1) 三井楽(みみらくのしま)



(4) 大宝寺(西高野山、五重の層塔、梵鐘)



(2) 明星院本堂



(3) ともづな石



新上五島町

(1) 日島の石塔群



(2)-3 姫神社



(2) 遣唐使史跡

(2)-1 姫神社跡



(2)-4・5 錦帆瀬、三日ノ浦



(2)-2 ともじり石



(2)-6 御船様



(3) 伝教大師最澄ゆかりの山王信仰

(3)-1 山王山



(4) 五島うどん



(3)-2 青方神社



(3)-3 雄嶽日枝神社の報賽鏡



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
17	国境の島 壱岐・対馬・五島 ~古代からの架け橋~

(1) 将来像(ビジョン)

「国境の島 壱岐・対馬・五島」は、魏志倭人伝にも記され弥生時代の一支国の王都であった原の辻遺跡、大陸からの侵攻を防ぐための古代の山城で防人が置かれた金田城跡、遣唐使船の日本最後の寄港地であった五島列島、蒙古襲来(元寇)江戸時代における朝鮮との国交回復(通信使行列)など、我が国の歴史上でも重要とされる多くの文化資源を有し、融和と衝突を繰り返しながらも、アジア大陸との交流が連綿と続き、現在も国を越えた環境活動、様々な文化・スポーツ交流が行われるなど、国と国、民と民の深い絆が感じられる稀有な地域であり、平成27年に第一弾の日本遺産として認定された。

こうした「国境の島」ならではの歴史的価値を、国境の島がつむいだ「交流と絆」のストーリーとしてまとめ、史跡探訪、古代食や古代の技術体験、祭祀への参加、五島うどん・対州そば・壱岐焼酎等の食、文学・映画・ゲーム・アニメの追体験、国を超えた歴史文化イベント、スポーツ・芸術交流などを通じて、大陸との交流・絆を体感でき、訪れる人は、その土地に身を置くことにより、自分たちの精神の広がりを作り、心の豊かさの地平を広げ、それをお迎えした人も同じような気持ちで自分の精神が豊かになる、そのような幸せな関係を作ることができる地域を将来像として目指していく。

融和と衝突を繰り返しながらも、連綿と続く国境の島ならではの「大陸との交流と絆」を体感し、心の豊かさを広げ、幸せな関係を作ることができる地域の実現

来訪者にとっては、

来訪者が「国境の島」に身を置くことにより、史跡めぐりや祭り・イベントへの参加、食などの体験を通じて、地域の風土や人々の暖かさにふれ、「大陸との交流と絆」というダイナミックなストーリーに触れ、精神の広がりを感じることができる地域となっている。

また、富裕層や知識層が満足できる宿泊や文化財周辺の整備が進み、居心地の良い空間の中で、歴史・文化を学ぶことにより、国境の島の魅力を体感し、新たな発見が得られ、何度でも来訪したくなる地域となっている。来訪者の多くが「国境の島」のファンになり、情報を発信していくことによって新たな来訪者を作り出す好循環が生まれている。

地域住民にとっては、

「国境の島」に関するふるさと教育や生涯学習が多世代にわたり行われ、地域の歴史・文化への誇りと郷土への愛着心を感じ、住んでよかったと思える地域になっている。

また、訪問者に対しては、おもてなしの心で接しながら地域愛を語り、日本遺産の芯である「大陸との交流と絆」を共に感じ、心の豊かさを広げ、交流人口や関係人口につながる幸せな関係をつくることのできる地域となっている。さらに、文化財を守り伝えるとともに、観光やまちづくりに活用することで、文化に対する関心が高まり、国を越えた環境

活動や担い手づくりなど、文化資源の保存・継承につながる好循環ができています。

民間事業者にとっては、

適切に保全された文化資源や、発掘などの調査研究により新たに生み出された価値やストーリーを活用して、富裕層や知識層、テーマを持った個人旅行など多様な旅のニーズに応じた、魅力ある「国境の島」のツアー、体験コンテンツなどが継続的に事業化され、利潤を挙げている地域となっている。

また、来訪者の増加は、バス・航路事業、ガイド業、飲食店、物販店、宿泊施設、食材を提供する農林水産業、加工業など地域産業の活性化をもたらし、その利潤の一部が文化資源の保存・継承、及び活用に還元されるなど、文化観光推進に貢献している。

地域の長期総合計画等への位置づけ

【長崎県】

「総合計画(令和3～7年度)」において、日本遺産第1号として認定された「国境の島 壱岐・対馬・五島」や世界遺産など、本県ならではの特色ある歴史や文化芸術のストーリー性を重視した効果的な情報発信を行い、「観光振興基本計画(令和3～7年度)」においては、「国境の島」をはじめ県内の日本遺産の情報発信と活用を位置付けている。

【壱岐市】

「第3次壱岐市総合計画(令和2～6年度)」において、日本遺産を活かしたツーリズムを理念に、五島・対馬と連携した日本遺産の情報発信強化に努めることとし、「第4期壱岐市観光振興計画(令和4～6年度)」において、「国境の島」の重点支援地域としての認定と、「対馬市、五島市、新上五島町と連携した、日本遺産認定のストーリーをしっかりと伝えられる情報発信の取組」について記載している。

【対馬市】

「第2次対馬市総合計画(平成28～令和7年度)」において、観光客誘致として「日本遺産『国境の島』の構成文化財のPR」、歴史文化の継承として「日本遺産をはじめとする歴史文化遺産の資料作成、情報発信の充実」を位置づけ、「対馬市観光振興推進計画(令和4～8年度)」において、対馬の強みとしての歴史(大陸との交流、防人、朝鮮通信使など)を記載している。

【五島市】

「第2期五島市人口ビジョン・総合戦略(令和2～6年度)」において、観光による交流拡大プロジェクトとして「日本遺産などの地域資源を活用した魅力的な周遊ルート・滞在プランを企画・開発、旅行ツアーの誘致に努める」こととし、「五島市第3期総合戦略アクションプラン(令和5～7年度)」において、五島の魅力を活かした旅行商品・体験プログラムの造成を掲げている。

【新上五島町】

「新上五島町第2次総合計画(令和2～6年度)」において、日本遺産「国境の島」の情報発信や整備に努め、交流人口の拡大等に活用すると記載し、「新上五島町滞在型観光推進計画(平成27～令和6年度)」において、日本遺産を「国境の島の古代の物語発信プロジェクト」として位置づけ、歴史文化を活用した観光の推進を図ることとしている。

(2) 地域活性化計画における目標

目標 : 地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標 - A : 各市町の「国境の島」拠点施設の来訪者数

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	74,217 人	91,732 人	88,928 人 (1 月末)			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	94,400 人	98,800 人	103,200 人	107,600 人	112,000 人	116,400 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	日本遺産の拠点施設への来訪者数を指標として把握する。実績値・目標値は、一支国博物館、対馬朝鮮通信使歴史館、五島観光歴史資料館、鯨賓館ミュージアムの各設定値の合計。					

目標 : 地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること

指標 - B : 主要な構成文化財の体験数

年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	28,413 人	35,968 人	37,503 人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	37,600 人	37,800 人	38,000 人	38,200 人	38,600 人	39,000 人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各地域の主要な構成文化財での体験数を指標として把握する。実績値・目標値は、原の辻ガイドンスでのワークショップ、万松院探訪、明星院・大宝寺でのストーリー解説、山王山トレッキングへの参加者数の合計。					

目標 : 地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標 - A : 地域の歴史文化に誇りを感じる住民の割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	68%	69%	71%			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	72%	72%	73%	73%	74%	74%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	県民アンケートにより、地域の歴史文化に誇りに感じる当該地域住民の割合を指標とする。「とても感じる」、「少し感じる」の加重平均を取り、2029年度におよそ3/4の74%を達成するための年度ごとの指標を設定する。					

目標 : 日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標 - A : 主要「国境の島」関連施設・構成文化財での売上						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	2,424万円	6,953万円	6,537万円			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	8,117万円	8,222万円	8,307万円	8,392万円	8,477万円	8,562万円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各市町の主要な「国境の島」関連施設・構成文化財での売上を指標として把握する。実績値・目標値は、一支国博物館ショップ・歴史探訪パスポート・遣唐使ふるさと館の売上、鯨賓館ミュージアムの入館料の合計。					

目標 : 日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標 - A : 公開活用ができていない構成文化財の割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	97%	97%	97%			

年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	97%	97%	97%	97%	97%	100%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	各市町が毎年、実態調査を行い、公開活用状況の把握、課題・問題点について検討を進め、令和11年度(2029年度)までに、100%公開活用が可能な状態を目指す。					

目標 : 地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標 - A : 地域の観光客入込客数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	829 千人	1,144 千人	1,452 千人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	1,466 千人	1,480 千人	1,496 千人	1,510 千人	1,525 千人	1,539 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町の観光入込客数を把握する。2024年以降は、2023年を基準に、県総合計画の伸び率を用いて2029年度に6%増の観光客入込客数を目指す。					

目標 : 地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標 - B : 地域の外国人観光客数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	2 千人	3 千人	集計中			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	222 千人	233 千人	244 千人	255 千人	266 千人	277 千人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	構成市町の外国人延べ宿泊者数を把握する。2024年にコロナ禍以前の水準(2019年)に戻すことを基準とし、以降、これを基準に、県総合計画の伸び率を用いて2029年度に25%増の観光客入込客数を目指す。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

取組の柱1 日本遺産「国境の島」組織体制の活用、強化

【現状・成果・課題】

認定以来、行政及び民間団体から成る「国境の島」推進協議会が中心となって、観光事業化、整備、普及啓発、情報発信など一連の日本遺産の取組を進めており、令和3年度からは、以下のとおり、組織を新設し人材育成を充実することにより、日本遺産事業を着実に推進するための基盤強化を図った。

- ・日本遺産の取組方針の決定、事業の総指揮をする「プロジェクトリーダー」を設置
- ・県の観光など関係部署が定期的に協議、意思決定する「関係部局連絡会議」を新設
- ・各市町部会に総合的な企画・立案を行う「地域プロデューサー」を新設。壱岐では古代体験事業、新上五島では山王山信仰を通じた地域交流事業などを実施している。
- ・各市町部会に、「ワーキンググループ」を設置。五島では日本遺産とジオパークの連携、対馬では環境をテーマとした国際交流などが提案され、事業が実施されている。

今後は、これらの組織体制や人材育成をフルに活用し、さらに事業効果を高めていくことが課題であり、加えて、新たな視点を企画立案に活かす仕組みづくり、安定的な組織運営のための財源確保について、持続的に取り組んでいく必要がある。

【取組の内容】

まず、「国境の島」推進協議会においては、構成メンバーのそれぞれの役割を明確化し、観光連盟や民間におけるツアー化・体験コンテンツ創造の促進、市町におけるワーキング会議・人材育成、行政による地域活動への支援など、専門性を活かした事業を実施し、それらを協議会事業として連携することにより、日本遺産の事業効果の更なる増進を図る。

次に、少子高齢化、グローバル化、DX化など日本遺産をめぐる様々な状況の変化に適切に対応していくため、外からの目を入れ、これまで実施した事業の検証や、今後の取組について検討していく仕組みが必要であり、このための「座談会」を新たに設置する。座談会のメンバーは、全国の事例に精通した有識者、県・市町、地域プロデューサー、観光関係者等で、得られた提言を基に、事業への反映や、新たな企画立案につなげていく。

また、行政の考え方にとらわれず、地域住民が主体となった取組を促進するため、新たな視点での地域プロデューサーの探索や、地域プレイヤーの確保とスキルアップに向けた人材育成を行う。

日本遺産の取組の自走化に向けた財源確保としては、「国境の島」推進協議会負担金、日本遺産関係補助金、特定有人国境離島地域社会維持推進交付金などの公的資金を活用するとともに、ふるさと納税、寄付、クラウドファンディング、グッズ販売、民間団体等における収益事業などを実施し、持続的な資金確保と安定した組織運営を図る。

取組の柱2 大陸との交流・絆

【現状・成果・課題】

日韓の市民が参加し、「大陸との交流と絆」の象徴である朝鮮通信使行列再現は、日本遺産認定を契機とした多言語案内板やパンフレット等の整備、対馬市国際交流協会の釜山事務所による観光案内やメルマガ配信、令和3年度の対馬朝鮮通信使歴史館の開館などにより、韓国人来訪者が、国境の島のストーリーに触れ、楽しむことができる状況になってい

る。また、市民劇団「漁火」によるミュージカルや、江戸時代に韓国と誠心外交を進めた雨森芳洲を顕彰する「芳洲会」など、民間団体においても大陸との交流の文化的価値を広める取組が地域内外で行われ、国を越えた輪として広がっている。こうした中、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、対馬への韓国人観光客は一時期激減したが、令和5年度2月には、対馬（比田勝）～釜山航路が再開されたこともあり、それ以降は回復基調にある。

今後、日本遺産の芯である「大陸との交流と絆」を、訪れる人も迎える人も、日本遺産の取組を通じて感じることができ、心が豊かになるような地域になっていくことが課題であり、様々な分野で国を越えた友好交流を進めていく必要がある。

【取組の内容】

連綿と続く「大陸との交流・絆」の証として、朝鮮通信使を主軸とした官民協働の日韓交流を進めていく。韓国からの参加者や協力団体、日本からも対馬内外からの参加のもと、朝鮮通信使行列の再現、復元船による航路再現、朝鮮通信使の道をたどる日韓友情ウォークなどの交流事業を実施し、日本遺産「国境の島」のストーリーの発信、及び体験を通じた日韓の友好交流を促進する。

加えて、民間が主体となって、写真、美術などの文化交流、日本遺産をきっかけに毎年開催している壱岐ウルトラマラソンやサイクルフェスティバル、対馬の国境マラソンなどのスポーツ交流、韓国人高校生・大学生のホームステイ受入、五島市による留学生を対象とした日本語学校などを通して、「国境の島」のストーリーや構成文化財に触れ、理解を深めていくことにより、両国市民間の信頼関係を育てていく。

また、対馬沿岸には年間約3万～4万立方メートルにも及ぶ大量の海洋ごみが国内外から漂着しており、令和5年8月には、駐日韓国大使や米国大使も対馬市を訪れ海岸を清掃している。日本遺産「国境の島」の取組の一環として、日韓の市民や学生たちが一緒になったクリーンアップ活動を実施し、環境問題について意見交換するなど、日韓の次世代が自然や歴史を守り、活かしていくため、力を合わせていけるような状況をつくっていく。

朝鮮通信使、その他文化・スポーツを通じた国際交流、環境問題への協働などを総合的に進めることにより、日本遺産の芯となる「大陸との交流と絆」を両国民が体感し、心の豊かさや幸せな関係をつくることのできる地域としての将来像の実現を目指していく。

【取組の柱3 文化観光の視点による整備と観光事業化】

【現状・成果・課題】

認定を機に、空港・港湾の旅客ターミナルに多言語による日本遺産ギャラリー、構成文化財の説明板、誘導板を設置し、令和3年度以降は、「国境の島」のストーリーや各種情報がわかる「日本遺産コーナー」を各市町の文化・観光拠点に設置するとともに、トイレや通路、手すりなど、利便性向上、バリアフリー化のための整備を行ってきた。

観光事業化では、県市町と県観光連盟が連携し、観光・交通事業者への支援を行い、魅力ある体験や滞在時間の増加につながる数多くの旅行商品が造成され、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で旅行需要が一時期低迷したものの、県外客の宿泊客は増加している。また、山王山や、岳の辻などでのトレッキング、原の辻遺跡での古代体験、民間汽船会社による世界遺産と日本遺産を組み合わせたツアー、宿泊を含む滞在型のモデルルートの設置、アニメ、ゲーム、映画の聖地探訪、リゾート型宿泊施設のオープン、対馬博物館

の開館など日本遺産をテーマとした魅力ある体験コンテンツの提供につながっている。

今後は、富裕層や知識層、インバウンドが満足できる「国境の島」でしかできない、魅力ある体験型ツアーや、居心地の良い空間の提供などが課題となっており、コンテンツの磨き上げに資するサブストーリーの作成や、アクセスの改善、構成文化財の利便性向上、質の高いガイドとおもてなしができる人材の確保などに取り組んでいく必要がある。

【取組の内容】

来訪者のタッチポイントとなる港や港湾の旅客ターミナルに設置された日本遺産ギャラリーに加え、解説版、多言語案内板などを整備するとともに、日本遺産コーナーにおいては、日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力をわかりやすく伝えるため、展示や映像など使ったサブストーリー紹介、アクセス、他の日本遺産の情報などの充実を図る。

さらに、構成文化財や関連施設へ、スムーズにアクセスできるよう、観光連盟や交通会社と連携し、壱岐、五島での電動アシスト付き自転車の整備、駐車場マップの作成、対馬での周遊タクシーの運行によるアクセス改善など、地域の交通事情に応じた二次交通の整備を行うとともに、自然環境に配慮した山道整備などを行う。

富裕層や知識層を誘客するため、壱岐・対馬・五島において「しまの遺跡探究事業」をはじめ文化財調査を行い、その成果をもとに日本遺産「国境の島」のストーリーや文化財を磨き上げ、より魅力的なコンテンツとして活用する。また、古民家の活用による居心地のよい空間の提供や、原の辻遺跡内にあるテレワークセンターの利用促進など、文化財の活用による経済効果を文化資源の保存活用にも再投資する「文化観光の視点による観光事業化」を企画検討する。また、インバウンドの増加を見込み、外国人の視点や関心に沿った多言語化ガイドブック作成や、説明板の整備を行う。

県と県観光連盟、旅行事業者が連携して、日本遺産を含むしま旅滞在促進事業を実施し、「国境の島」への誘客拡大を図るとともに、長崎コンシェルジュ推進事業や地域の研修を通じて質の高いガイド育成を図る。また、クルーズ船の特別メニューとしても活用できる古代体験プログラムや修学旅行プログラムの作成、トレッキング、祭りなど民間主催のイベント開催、うどん、お菓子などの商品開発などを通じて、誘客拡大を図る。

さらに、[適切な情報発信 募集 予約 体験メニュー その他サービス]を旅人になぞらえた「カスタマージャーニー」の視点から、観光連盟や旅行会社等と連携して、民間会社のWebサイトや、スマートフォンアプリ、SNSを活用した情報発信を行う。

取組の柱4 地域の誇りの醸成と魅力発信

【現状・成果・課題】

日本遺産認定を契機に小・中学生、高校生に対し、「国境の島」推進協議会や県教育委員会、市町が作成した日本遺産がわかる冊子、ドリルを活用した授業、現地見学により「ふるさと教育」を実施した。また、文化財の展覧会やシンポジウム、朝鮮通信使行列や古代食の体験などのイベント、巡回パネル展、出前講座などを開催し、地域住民が郷土の歴史文化に対する理解を深め、誇りに思い、地元への愛着心が感じられるような取組を行った。

情報発信では、協議会ホームページや県・市町の観光振興HP、SNS、インバウンド向けの県ウェブサイトを活用するとともに、PRのための映像やグッズ、ポスター、リーフレットを作成し、各種イベントやマスコミや雑誌社などと連携した広報を実施した。

これらの取組により、日本遺産の認知度、及び地域住民の歴史文化に誇りを持つ方の割

合は年々高くなっている。一方では、進学、就職のため島外へ出ていく若者も多く、取組の担い手の確保が課題となっており、子どもや地域住民のシビックプライドの醸成、魅力発信の強化による交流人口や関係人口の拡大に取り組んでいく必要がある。

【取組の内容】

小・中学生に対しては、協議会の冊子「国境のひみつ」や県教育委員会のウェブサイト「ふるさと長崎県」などを活用した授業、原の辻遺跡、山王山など構成文化財を活用したフィールドワーク、埋蔵文化財センターや一支国博物館と連携した出前授業、体験学習を行うとともに、高校生に対しては、国境の島の歴史を深掘りした解説本による学習など、学校教育と連携した「ふるさと教育」を行い、次代の担い手の育成につなげ、進学や就職でいったん島外に出ても、将来はUターンしたいという気持ちを持ってもらう。

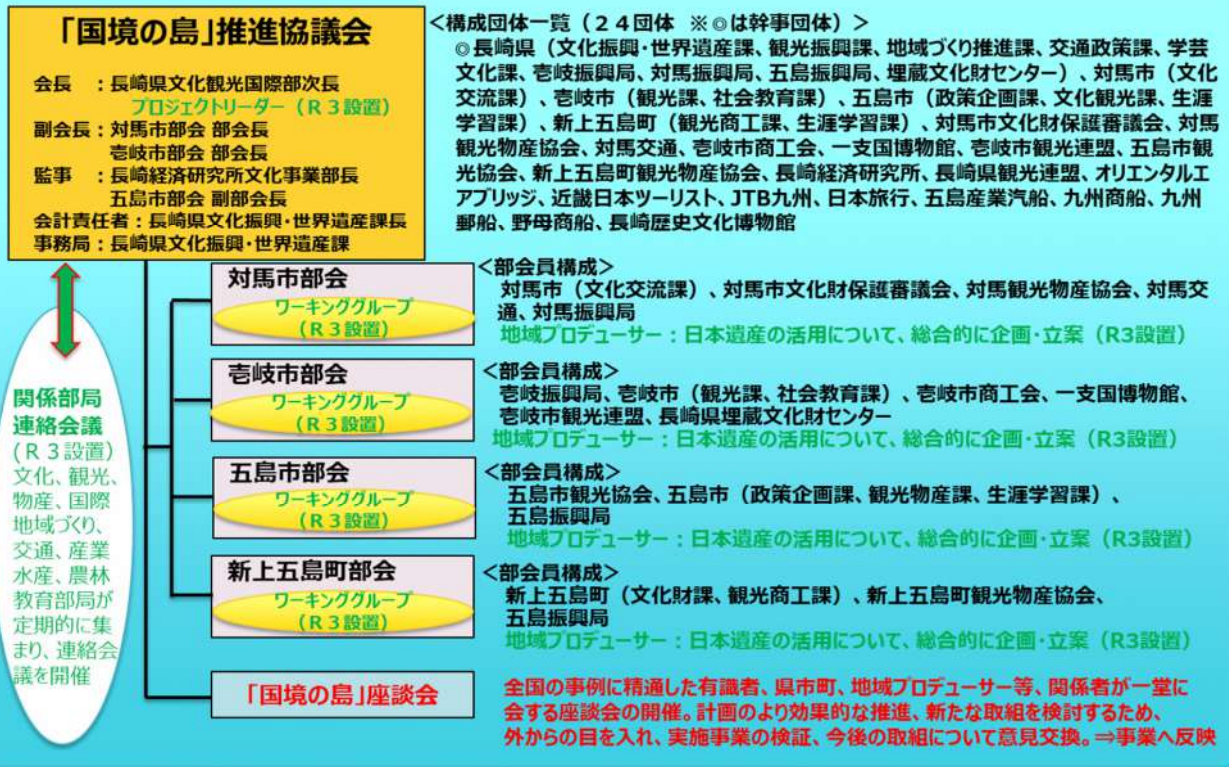
また、長崎県独自の離島留学制度として、壱岐高等学校に東アジア歴史・中国語コース、対馬高等学校に国際文化交流科が設けられており、県外出身の生徒に対しても日本遺産のストーリーを知ってもらい、地域や国を越えた文化の相互理解につながる契機とする。

地元住民が地域の歴史文化を誇りに思い、持続的に日本遺産の担い手になりたいと思えるよう、発掘現場公開や展覧会・講演会の開催、朝鮮通信使行列などの国際交流イベント、出前講座、祭り、万葉の歌イベントの実施などを通じて、日本遺産の地域への浸透を図る。

普及啓発事業と併せて、日・英・中・韓の4か国語で掲載する協議会ウェブサイトや文化庁ポータルサイトはもとより、県・市町の観光振興HP、例えば若者などをターゲットにゲーム（ゴースト・オブ・ツシマ）やアニメ（アンゴルモア元寇合戦記）の聖地についてのSNS発信、インバウンド向けの県ウェブサイトなどによる情報発信などを重層的に行う。また、PR映像やPRグッズ、ポスター、リーフレット、PRグッズの開発、マスコミとタイアップした広報宣伝を通じて、総合的に「国境の島の」魅力発信を行い、交流人口、関係人口の増加につなげていく。

(4) 実施体制

<国境の島推進協議会の組織体制図 (朱書きはR6年度以降新規に取り組むもの)>



<各主体の役割>

県・市町の関係部署 (協議会)：文化、観光、物産、教育、国際交流、産業など各行政分野における事業と日本遺産の取組との調整、連携事業の企画立案及び実施

関係団体 (協議会)

長崎県観光連盟：しま旅HPでの発信と旅行商品造成支援

対馬観光物産協会、彦岐市観光連盟、彦岐市商工会、五島市観光協会、新上五島町観光物産協会：日本遺産に係る地域情報の発信、着地旅行の取扱、観光ガイド・体験インストラクターの育成、物産PR・販売促進、観光案内所運営など

一支国博物館、長崎経済研究所、対馬市文化財保護審議会、長崎歴史文化博物館：調査研究、企画展、講演会、HPによる発信など

民間事業者 (協議会)

オリエンタルエブリッジ、五島産業汽船、九州商船、九州郵船、野母商船、対馬交通：彦岐・五島・対馬への定期航空路線、航路の運航、日本遺産の周知など

近畿日本ツーリスト、JTB九州、日本旅行：「国境の島」の旅行商品造成、日本遺産の周知など

関係部局連絡会議：県の観光、物産、地域振興、国際、産業、教育関係部署からなる定期的な会議で、日本遺産に係る情報共有、連携事業の協議、意思決定を行う。

プロジェクトリーダー (「国境の島」推進協議会会長)：日本遺産の取組について、方針の決定、事業の総指揮、団体との調整などリーダーシップを取って進める。

「地域プロデューサー」：地域づくりに専門的な知識、経験を有する方で、各地域において総合的な企画・立案、体験事業や地域交流事業などを行う。

【彦岐市】：NPO 法人一支国研究会理事長 伊佐藤由紀子氏 (観光分野) (一社) 彦

岐市観光連盟 課長補佐 徳永満智子（観光分野）（株）パブリックビジネスジャパン代表 萩原宣氏（教育分野）【対馬市】：合同会社 ビーコンつしま代表社員 佐藤 雄二 氏、対馬市文化交流課長 玖須博一氏、【五島市】：ANA総合研究所から五島市に派遣されている職員（観光戦略アドバイザー）、五島市文化財保護審議会委員 中村真由美氏、【新上五島町】「日本遺産山王山の歴史と文化を守る会」の代表

ワーキンググループ：各市町部会で、民間や各種団体を交えたワーキング会議（ワークショップ）を開催し、日本遺産に関する課題や新たな取組について検討する。

「国境の島」座談会：全国の事例に精通した有識者を交えた座談会を新たに設置し、日本遺産の取組の検証や課題について意見交換し、事業に反映する。

[人材育成・確保の方針]

地域プロデューサーの育成・確保のため、協議会市町部会やワーキング会議を通じて、専門の知識や経験を活かした企画を提案し、地域プレーヤーを取りまとめながら実践してもらう機会を広げていく。また、全国の事例に精通した有識者を交えた「座談会」に参加してもらい、時代の変化や外からの目を入れた事業の検証や企画・立案のスキルを高めるとともに、地域おこし協力隊や、観光振興・まちづくり・文化団体のリーダー、しまの起業家、国際協力員など新たな視点から活動力のある方の探索を進める。

地域プレーヤーについては、まず、地元住民の方々が日本遺産としての価値を理解し、誇りをもって自らが取組の担い手になりたいと思えるよう、調査研究に基づく企画展、講演会、出前講座、体験事業などの普及啓発、全国に向けた情報発信による地域ブランドの醸成を図るとともに、地域検定やコンシェルジュ推進事業などを通して、富裕層や知識層にも対応できるガイドスキル、おもてなし心の育成を図る。

また、長崎県の「しま」でのフィールドワークを行いグローバルかつローカルな視点で地域課題に取り組み課題解決力を身に付けさせることを目的とした長崎県立大学の「しまなび」プログラムで、日本遺産「国境の島」をグループテーマの選択肢のひとつに掲げ、地域との意見交換や企画提案により、地域プレーヤーや観光人材の育成につながる契機となるよう取り組んでいく。

次代の担い手となる小中学生・高校生に対しては、学校教育の中で「国境の島」の歴史や魅力を学び感じてもらい、進学や就職でいったんは島外に出ても、Uターンで戻ってきたいと思えるような「ふるさと教育」を行うとともに、離島留学制度やいわゆる「試住の旅」（仕事や学びで一定期間島に滞在し、歴史文化に深く触れてもらう）を通じて、関係人口を増やすなど、中長期的視点からの取組を行う。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

組織体制の強化

「国境の島」推進協議会は、県・市町の関係課、県観光連盟、市町観光協会、観光・交通関係事業者、文化関係団体等から構成されており、日本遺産の取組と文化観光の推進に必要な組織体制が整備されている。今後、それぞれの役割分担を明確にすることにより、調査研究による文化の磨き上げを文化関係団体が行い、それらを活用した体験コンテンツづくりや観光事業化事業などを民間事業者が行い、これらを行政がサポートするなど、組織内の連携強化のもと、構成メンバーが持つ専門性を活かした事業を展開し、効果を高めていく。

自立・自走化に向けた財源の確保

「国境の島」推進協議会負担金、協議会グッズ販売収入、ふるさと納税、ふるさと企業納税、「有人国境離島法」に基づく特定有人国境離島地域社会維持推進交付金、文化庁日本遺産関係補助金、その他の補助金・交付金を、人材育成、整備、観光事業化、普及啓発、情報発信など日本遺産事業のための基礎的な財源として活用する。

一方、民間企業、交通事業者、地元商店、団体等においては、旅行商品の造成や、体験コンテンツの提供、商品開発、ガイド事業、各社の広告手段を使ったPRなど、日本遺産を活用した様々な観光事業化を行い、収益を上げることにより、事業を持続的に実施するための財源とする。協議会においては、この動きを加速するため、あらゆる機会を通じて日本遺産の魅力発信に努め、認知度やブランド力の向上を図ることにより、誘客、滞在時間の増加、観光の高付加価値化につなげるなど、民間企業が日本遺産を利用しやすい条件や環境づくりに努める。

また、県市町、県観光連盟、旅行会社等が連携して、「しま旅滞在促進事業」やしま旅に対する受入態勢整備、プロモーションなどを実施し、地域全体でツアーや体験コンテンツなどの観光事業を増やしていく。これらにより、「国境の島」への来訪者が増加し、関連事業者の売上げと収益増につながり、日本遺産事業の自立・自走化がもたらされる。

さらに、対馬を舞台に世界的にヒットしたゲーム、「ゴースト・オブ・ツシマ」や、構成文化財の多くが聖地となっているアニメ、「アンゴルモア元寇合戦記」、「くちびるに歌を」などの映画やテレビドラマ、漫画の取材地などをウェブサイトやSNSで発信することにより、ダイナミックな歴史や癒しの空間としての「国境の島」への来訪意欲が高まり、若者や親子連れなど新たな来訪者の獲得、滞在時間の延長、地域での消費拡大につなげることができる。SNSについては、「情報の認知 興味 比較検討 予約 現地に行って体験 感想を投稿(推奨) 情報の認知」といったサイクルを生み出す「カスタマージャーニー」の視点を考慮した発信とする。

地元企業においては、日本遺産を活用した土産品の開発、日本遺産ロゴマークの使用等により、売上げの増加を図る。また、観光客が増加することにより、地元商店など身近な経済効果も期待され、文化財の保存活動や、イベントの開催など活用への再投資などにもつながっていく。さらに、地域の財産である世界遺産、ジオパーク、地元の食や海浜などの観光スポットと日本遺産を組み合わせたモデルコースをつくり、観光・消費活動を点から線、線から面へ広げていき、観光、農林、水産など様々な業種で利益が上がるような仕組みをつくっていく。文化財の保存・活用に充てるため目的に係るクラウドファンディ

ングについても検討する。

これらのことにより、「地域活性化計画」期間、及びその後においても、資金の確保と安定した組織運営など、日本遺産の取組を行う組織の自立・自走化が図られる。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

1. 日本遺産の取組をどのように構成文化財の保存と活用につなげていくか

壱岐・対馬・五島において、発掘など文化財の調査研究(「しまの遺跡の魅力」探求事業など)を進め、構成文化財の価値の顕在化、歴史ストーリーの深掘り、サブストーリーの作成などを行い、文化面から来訪地としての魅力度、快適度を高めていく。構成文化財の保存によって生み出された価値やストーリーの魅力を活用して、富裕層や知識層のニーズに応じた「国境の島」の周遊ツアー、体験コンテンツの事業化を図る。また、全体のストーリー等がわかる日本遺産コーナーの充実、ガイド人材の育成、宿泊施設の高質化、トイレ、バリアフリーなど便益施設の改善を併せて図るとともに、HP、SNSを通じて、構成文化財の価値やストーリーの面白さをわかりやすく国内外に発信し、インバウンドを含め、歴史ファンや若者、家族連れなどを対象とした様々なツアー商品が提供され、全体的な観光振興につながっていく。

これらの取組により、「国境の島」への来訪者(観光客)は増加し、観光事業者はもとよりバス・航路などの交通機関、飲食店、物販店、宿泊施設、食材提供者(農林水産業)への需要が高まる。「しま旅滞在促進事業」を活用したツアー造成や、五島うどんやお菓子の商品開発など観光事業への民間投資、ガイド人材への投資もなされ、観光消費額の増加や税収増、富裕層・知的欲求の高い方へも訴求できる質の高いサービスの提供につながっていく。

日本遺産の活用を通じて生み出された経済効果(利潤)を、修復など構成文化財の保全に投資することにより、さらなる文化資源の磨き上げと魅力度向上がなされるとともに、地域住民の文化財に対する誇りと保護意識が高まり、自発的な見守り、清掃などボランティアによる労力提供もなされ、まちづくりや地域活性化に寄与する。

文化財の適切な保全によってもたらされる、構成文化財の価値や魅力度の向上は、新たな興味や再来訪の意欲の源泉となり、企画展や展覧会やイベントなど構成文化財の活用策を講じることにより、新たな歴史ファンの獲得、来訪者の増加など2巡目の観光振興につながっていく。

以上により、構成文化財の保存と活用、文化振興と観光振興の好循環が実現される。

2. 構成文化財の継承のための取組

地元住民の方々が、「大陸との交流と絆」という日本遺産「国境の島」ならではの価値を理解し、誇りをもって自らが構成文化財の継承の担い手になりたいという気持ちを持ちつづけることが大切である。このため、パネル巡回展や県・市町の広報媒体を使った普及啓発、HP、SNS、マスコミ等を通じた情報発信を継続的に行い、歴史文化の理解促進、日本遺産ストーリーの地域への浸透を図る。また、観光振興団体、観光・交通事業者にも日本遺産をテーマとした旅行商品の造成や、各社の広告手段を使ったPRを行ってもらおう。

次代の担い手となる子供たちに対して、協議会作成の「国境の島のひみつ」や市町読本を活用したふるさと教育、埋蔵文化財センター、一支国博物館など地域の文化施設と連携した授業など、学校教育の中で構成文化財の価値やストーリーを学び、歴史文化についての理解を深め、魅力を感じてもらい、ふるさとへの誇り、愛着醸成につなげていく。このことにより、地元の祭りやイベント、文化財や海岸の清掃ボランティアなど文化財の保全に資する事業への参加意欲も高まり、中長期的には、進学や就職のため、いったんは島外に出ても、将来、地域に戻って、日本遺産の取組や構成文化財の継承者となることが期待される。

仕事（転勤）や学び、国際交流、環境活動、文化・スポーツ交流などで一定の期間、島に滞在し、歴史文化に深く触れてもらう、いわば「試住の旅」という経験を通して、日本遺産の芯である「大陸との交流と絆」を感じてもらい、心の豊かさを広げ、幸せな関係を作ることができる地域として認識してもらうことにより、将来のＩターンや、ふるさと納税の契機となるなど、関係人口として構成文化財の継承に参加してもらう取組を進める。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産事業推進体制の強化		
概要	関係者が連携した日本遺産事業の効果的な推進を図るため、取組の中核をなす「国境の島」推進協議会の構成メンバーの役割を明確化するとともに、地元ワーキングの活性化、外部有識者を交えた座談会、関係部局連絡会議の組織体制を強化する。		
	取組名	取組内容	実施主体
	「国境の島」推進協議会における役割明確化と連携強化	県・市町の文化、観光、地域づくり、交通関係部署、観光・交通関係事業所・団体、博物館、経済研究所等を構成メンバーとする協議会において、各構成メンバーの役割を明確化し、観光連盟による「しま旅滞在促進事業」、民間（観光・交通会社）による体験コンテンツ造成、地域団体と協働した文化財の保存・活用など、それぞれの団体が有する専門性やネットワークを活かした地域活性化事業を、協議会や関係者間で連携を密にしながら推進する。	協議会 団体、民間
	各市町部会におけるワーキング会議の活性化	「国境の島」推進協議会の各市町部会において、地域プロデューサーや協力団体を交えたワーキング会議を開催する。ワーキング会議では、構成文化財の活用、交流人口増に向けた取組などをテーマに、住民参加型のワークショップにより、意見交換、課題抽出、改善策の提言を得、事業への反映、検証、改善などPDCAサイクルを取り入れた事業を実施する。	協議会(壱岐市・対馬市・五島市・新上五島町)各部会
	座談会の開催	計画のより効果的な推進と、新たな取組を検討するため、外からの目を入れ、全国の事例に精通した有識者、県市町、地域プロデューサーをはじめ関係者が一堂に会する座談会を、対面、及びオンラインにより開催する。座談会では、これまで実施した事業の検証や、今後の取組についての意見交換を行い、事業に反映していく。	協議会
	関係部局連絡会議の活用による取組の強化	文化、観光、国際、教育、農林水産、産業、教育など県庁関係部局から成る連絡会議を定期的で開催し、「国境の島」に係る情報共有、連絡調整、効果を高めるための事業連携についての意思決定、PDCAを実施する。	長崎県

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	33 団体（人）
2022		34 団体（人）
2023		38 団体（人）
2024	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	38 団体（人）
2025	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	39 団体（人）
2026	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	39 団体（人）
2027	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	40 団体（人）
2028	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	41 団体（人）
2029	日本遺産関連事業の参画者数（行政以外）	42 団体（人）
事業費	2024 年度：582 千円 2025 年度：582 千円 2026 年度：622 千円	
	毎年度開催する「国境の島」推進協議会総会において、行政、民間の各構成メンバーの取組実績と事業計画について一つ一つ協議、情報共有し、連携した取組につなげる。関係市町においても、ワーキング会議を通じて継続した事業の取組を図る。	
事業費	2027 年度：622 千円 2028 年度：652 千円 2029 年度：652 千円	
継続に向けた事業設計	事業のより効果的な実施、社会経済状況の変化に対応した適切な取組を図るため、有識者を交えた座談会、P D C A の手法を利用しながら事業の検討を行う関係者連携会議を定期的で開催する。	

（事業番号 1 - B）

事業名	ふるさと納税などを活用した自主財源の確保		
概要	行政においては、ふるさと納税、寄付金、国の助成制度、民間においては日本遺産を活用したツアー販売、商品開発などの収益事業により、継続的に「国境の島」を応援する資金確保を行い、構成文化財の保存・活用に投資する好循環を生み出す。		
	取組名	取組内容	実施主体
	ふるさと応援寄附金事業	「日本遺産」をふるさと納税の寄付区分のひとつとして掲げ、つばき香り豊かな海と歴史文化を育む自立するしまを目指した、ふるさと応援寄附金を募集する。募集にあたっては、地域力豊かな返礼品の掘り起こしや、町の魅力を包括的に情報発信することで寄付金額の増加や町への応援者の拡大を図ることとし、最澄ゆかりの山王山信仰関連事業など日本遺産関連の文化資源の保存・活用のための持続的な財源とする。	新上五島町
	ふるさと納税による自主財源の確保	他の構成市町においても、これまで、壱岐市の「実りの島プロジェクト(歴史文化の保全、観光振興等)」や、対馬市の「歴史資産活用事業(金田城の情報発信、ツアー化等)」、五島市の「歴史・文化を生かしたふるさとづくり」に、ふるさ	壱岐市 対馬市 五島市

		と納税による寄付金を充てており、寄付の拡大を図り、構成文化財をはじめ文化資源の保全・活用のための継続的な財源として確保する。	
	収益事業の実施による財源の確保	観光、交通事業者、NPO等において、日本遺産を活用したツアー造成・販売や商品開発・販売などの収益事業を実施し、構成文化財の活用につなげるとともに、「国境の島」推進協議会において、ピンバッジ、トートバッグ等の売上収入などによる自主財源の確保を行う。	民間、団体協議会
	国の予算事業の活用	構成文化財の整備や観光事業化、普及啓発事業などに用いることを目的として、国の助成事業に応募・申請し、構成文化財の保存・活用に向けた財源確保を行う。	協議会、各市町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021			19,842 千円
2022	ふるさと納税等資金の確保金額		19,392 千円
2023			12,804 千円
2024			13,780 千円
2025	ふるさと納税等資金の確保金額		15,000 千円
2026	ふるさと納税等資金の確保金額		15,430 千円
2027	ふるさと納税等資金の確保金額		16,050 千円
2028	ふるさと納税等資金の確保金額		16,630 千円
2029	ふるさと納税等資金の確保金額		17,250 千円
事業費	2024 年度：2,400 千円 2025 年度：2,575 千円 2026 年度：2,800 千円		
継続に向けた事業設計	日本遺産のストーリーや構成文化財の魅力を広く発信し、関心を高めてもらうことにより応援者の拡大を図り、ふるさと納税、寄付金を財源とした日本遺産の取組件数を増やしていく。		
事業費	2027 年度：3,100 千円 2028 年度：3,450 千円 2029 年度：3,700 千円		
継続に向けた事業設計	観光、交通会社、団体において、日本遺産を活かしたツアーや商品の販売による収益をさらなる日本遺産の取組、文化財の保存・活用の財源に充てるなど好循環を生み出していく。		

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	「大陸との交流と絆」という地域コンセプト実現のための取組
概要	国境の島という地理的利点を生かして、朝鮮通信使に関する日韓交流をはじめ、民間の主導による文化・スポーツでの交流、環境活動などに取り組み、「国境の島」の芯である「大陸との交流と絆」を両国民が感じ、国を越えた友好関係を築き、訪れる人もそこに住む人も、国境の島なら

		ではの「絆、誠心の交わり」を感じ、心を豊かにしていくことができる地域を目指す。	
	取組名	取組内容	実施主体
	朝鮮通信使を主軸とした官民協働の日韓交流	韓国からの参加者や協力団体を招聘して、朝鮮通信使行列の再現を行うとともに、韓国釜山市における朝鮮通信使行列再現へ対馬市民が参加し相互交流を行う。また、令和5年に締結した「対馬朝鮮通信使歴史館と韓国釜山の朝鮮通信使歴史館協力協定」に基づく人的交流、韓国国立研究機関が建造した朝鮮通信使船復元船による航路再現、対馬・壱岐への来航依頼、日韓国交正常化60周年に向けた朝鮮通信使をテーマにした取組を検討、実施することで「大陸との交流と絆」を多くの来訪者に体感してもらう。	朝鮮通信使行列振興会 他関係団体 対馬市
	地理的条件を活かした地域交流	対馬と韓国釜山市の写真協会、美術協会のそれぞれが開催する写真展、美術展を、隔年に対馬と釜山で交互に実施し、両国民の交流を深める。また、日本語を学ぶ韓国人学生（高校生、大学生）のホームステイ受け入れ、対馬市と釜山広域市影島(よんど)区との交流セミナー実施などにより、連綿と続く「大陸との絆」を体現する。	対馬写真協会、対馬美術協会、上対馬交隣協会、マラソン実行委員会、対馬市
	環境活動を通じた草の根交流	漂着ゴミが大量に流れつく対馬沿岸において、対馬市民、韓国市民、釜山外国語大学生、対馬高校、企業、地域住民が参加し、「日韓市民ビーチクリーンアップ」を実施し、併せて意見交換会を行うことにより、国境の島特有の課題、問題を共有し、相互理解、交流促進につなげる。	対馬市、対馬高校、(一社)対馬CAPPA
	朝鮮通信使交流事業	韓国ソウルをスタートし、対馬市、壱岐市を經由して東京・皇居にゴールする「朝鮮通信使の道」を歩く朝鮮通信使日韓友情ウォークの会(2年に1度開催)が壱岐へ来島する際の原の辻遺跡王都復元公園の見学等を通じて、日本遺産「国境の島」の情報発信および日韓交流促進に繋げる。	壱岐市
	スポーツを通じた交流、国境の島の理解促進	日本遺産認定をきっかけに毎年開催している壱岐ウルトラマラソンや、壱岐サイクルフェスティバル、国境マラソン IN 対馬、国際サイクリング in 対馬、五島市のマラソン・トライアスロン等に韓国人など外国からの参加者を募り、主催者や民宿やホテルなどで周知活動を行うなど、地元住民と触れ合いながら日本遺産「大陸と	壱岐市 対馬市 五島市

		の交流と絆」の構築を図り、交流人口や関係人口の増加を目指す。	
	五島日本語学校での日本遺産周知活動	五島日本語学校に在籍する留学生（約 100 名）向けに日本遺産ガイド、リーフレット等の配布や日本遺産に関する講座を実施し、日本遺産の周知と理解を深める。	五島市 学校法人九州総合学院
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産を通じた国際交流の件数		1 件
2022			3 件
2023			8 件
2024	日本遺産を通じた国際交流の件数		9 件
2025	日本遺産を通じた国際交流の件数		9 件
2026	日本遺産を通じた国際交流の件数		9 件
2027	日本遺産を通じた国際交流の件数		9 件
2028	日本遺産を通じた国際交流の件数		10 件
2029	日本遺産を通じた国際交流の件数		10 件
事業費	2024 年度：8,895 千円 2025 年度：8,695 千円 2026 年度：8,095 千円		
継続に向けた事業設計	対馬市においては、令和 3 年に対馬朝鮮通信使歴史館、4 年 4 月に「対馬博物館」が開館し、韓国人観光客の入込客も徐々に回復しつつあり、まずは朝鮮通信使をキーワードとした国際交流を実施するとともに、芸術、文化、スポーツ、学術交流など行政のみならず市民レベルでの交流を活かし、日本遺産を体験事業や住民との触れ合いを通じて感じてもらう取組を行う。		
事業費	2027 年度：7,895 千円 2028 年度：8,195 千円 2029 年度：7,995 千円		
継続に向けた事業設計	対馬市の取組をリーディングケースとして、他の構成市町においてもそれぞれの歴史文化を活かした国際交流に取り組んでいくことにより、日本遺産の芯である「大陸との交流と絆」をコンセプトとして、「国境の島」全体として、国と国、民と民の深い絆が感じられる地域づくりとなることを目指していく。		

(事業番号 2 - B)

事業名	他の行政計画への位置づけ
概要	日本遺産事業を効果的かつ持続的に推進していくため、構成自治体の総合計画、観光振興計画に日本遺産制度及び本地域活性化計画を踏まえた位置づけを行う。また、壱岐市、新上五島町において文化財保存活用計画を作成し、構成文化財の継続的な保存・活用を促進するためのアクションプランとする。

取組名		取組内容	実施主体
長崎県総合計画、長崎県観光振興計画		現総合計画、観光振興計画期間：令和3～7年度 令和8年度の改定時に、日本遺産の趣旨及び本地域活性化計画の内容を反映させる。	長崎県
壱岐市総合計画、壱岐市観光振興計画		現総合計画期間：令和2～6年度 現観光振興計画期間：令和4～6年度 令和7年度の改定時に、日本遺産の趣旨及び本地域活性化計画の内容を反映させる。	壱岐市
対馬市総合計画、対馬市観光振興推進計画		現総合計画期間：令和2～7年度 現観光振興推進計画期間：令和4～8年度 令和8年度、9年度の改定時に、日本遺産の趣旨及び本地域活性化計画の内容を反映させる。	対馬市
五島市総合ビジョン・総合戦略、五島市総合戦略アクションプラン		現総合計画期間：令和2～7年度 総合戦略アクションプラン：令和5～7年度 令和8年度、年度の改定時に、日本遺産の趣旨及び本地域活性化計画の内容を反映させる。	五島市
新上五島町総合計画		現総合計画期間：令和2～6年度 令和7年度の改定時に、日本遺産の趣旨及び本地域活性化計画の内容を反映させる。	新上五島町
文化財保存活用地域計画への反映		壱岐市、新上五島町において、令和6年度より策定作業に着手する文化財保存活用計画に、日本遺産の趣旨及び本地域活性化計画の内容を反映する。	壱岐市 新上五島町
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	行政計画への位置づけ数		10件
2022			10件
2023			10件
2024	行政計画への位置づけ数		9件
2025	行政計画への位置づけ数		9件
2026	行政計画への位置づけ数		9件
2027	行政計画への位置づけ数		10件
2028	行政計画への位置づけ数		11件
2029	行政計画への位置づけ数		11件
事業費	2024年度：750千円　2025年度：1,000千円　2026年度：650千円		
継続に向けた事業設計	構成自治体においては、総合計画、及び観光振興計画等への位置づけが行われているが、地域活性化計画期間内に改定時期を迎える計画に改めて日本遺産の位置づけを明記し、継続的に事業を実施する。壱岐市においては、2027年度を目途に、文化財保存活用地域計画を策定予定であり、素材の整理、有識者ヒアリング、パブリックコメント、本文作成を進めていく予定である。		

事業費	2027年度：700千円　2028年度：250千円　2029年度：250千円
継続に向けた事業設計	新上五島町においても、日本遺産の保存活用に関する基本的なアクションプランを盛り込むため、2028年度を目途に文化財保存活用地域計画を作成することとしており、専門委員会を立ち上げ、文化財の活用状況調査、課題等の整理を行う。

(7) - 3 人材育成			
(事業番号3 - A)			
事業名	地域プロデューサー・地域プレーヤー等の確保、新たな探索		
概要	日本遺産を活用する人材の育成、確保のため、総合的な企画・立案を行う地域プロデューサーの活躍の場を増やすとともに、事業実施を担う地域プレーヤーのスキルアップを図り、さらに新たな視点で地域をプロデュースできる方の探索を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
	地域プロデューサーの活用と確保	地域振興、観光、教育関係の団体、NPO法人、民間会社、歴史と文化を守る会の代表など、現在各市町に置いている地域プロデューサーが核となった取組を一層拡充するとともに、これまでの延長線上ではなく、新しい視点で地域をプロデュースする方を探索し、日本遺産の取組の重層化を目指す。	吉崎市 対馬市 五島市 新上五島町
	ワーキング会議を通じた地域プレーヤーの拡大・育成	地域プロデューサーを核とした吉崎市ワーキンググループの運営を行うとともに、地域プレーヤーの拡大を目指す。また、普段から「国境の島」に携わる人だけでなく、市民や学生など様々な人が日本遺産の地域活性化に向けた意見交換に参加し、アイデアを募り、それらを実行に移す。	吉崎市
	観光ガイド勉強会	国境の島 対馬をキーワードとしたガイド勉強会を、講師を招聘して実施する。	関係団体(ビーコンつしま)
	郷土検定	令和元年度から市民向けに実施している郷土検定に、日本遺産の問題を出題する。(郷土検定申込者には、勉強用資料を配布している。この資料の中に日本遺産の資料をいれる。)また、検定合格者に対して、日本遺産のナビゲーターやプレーヤーとしての活躍の場を確保する。	五島市 ガイド連絡協議会

	研修や意見交換を通じた地域プレイヤーの育成	日本遺産認定を契機として組織された、伝教大師最澄ゆかりの「日本遺産山王山の自然と文化を守る会」をはじめ、住民、高校を対象とした研修会を定期的開催し、地域での課題や活用について、協議する場を設ける。また、地域団体と吉岐・対馬・五島の住民団体や地域プレイヤーと交流する場を設け、地元構成資産等の活用について協議を行う。	新上五島町
	日本遺産を活用した事業、人材育成事業への支援	交通事業者や旅行会社が行うアテンダント研修や、構成文化財を活用した体験事業、ツアーなどの企画に対する支援を行う。また、長崎県立大学の「しまなび」プログラムで、日本遺産「国境の島」をグループテーマの選択肢のひとつに掲げ、地域との意見交換や企画提案により、地域プレイヤーや観光人材の育成につながる契機となるよう取り組んでいく。	協議会
	廃墟景観シンポジウムの誘致	「文化財は失われてしまったら戻ってこない」ことを伝え、文化財の保存・修復への関心を高める機会を創出するシンポジウムを開催。旧摩耶観光ホテルの文化財登録の過程や利活用の取り組みなどを事例として学習予定。 最終的に文化財や景観の保全活動を目的とした団体の結成を目指す。	関係団体(ピーコンつしま)
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産を活用する人材・事業所の数		43人
2022			43人
2023			44人
2024	日本遺産を活用する人材・事業所の数		47人
2025	日本遺産を活用する人材・事業所の数		47人
2026	日本遺産を活用する人材・事業所の数		51人
2027	日本遺産を活用する人材・事業所の数		52人
2028	日本遺産を活用する人材・事業所の数		54人
2029	日本遺産を活用する人材・事業所の数		55人
事業費	2024年度：761千円　2025年度：761千円　2026年度：930千円		
継続に向けた事業設計	前計画において委嘱された地域プロデューサーや、地域プレイヤーにより、地域主体の日本遺産事業の企画・運営が図られているが、活躍の場を広げ、事業の効果を高めるためしていくため、地域住民や民間、高校生などを対象に、ワーキング会議、ガイド研修会、郷土検定、研修会などを継続的に実施していく。		

事業費	2027年度：980千円　2028年度：990千円　2029年度：990千円
継続に向けた事業設計	中長期的には、山王山信仰を通じた最澄ゆかりの地との交流や廃墟景観シンポジウムを契機とした団体設立、仕事や芸術活動などで一定期間、地域に滞在する方に日本事業の一端を担っていただくなど関係人口を活かした人材の確保、交通事業者や旅行会社など民間が行う人材育成への支援、新たな視点で企画・運営ができる地域プロデューサーの探索を進める。

(7) - 4 整備

(事業番号4 - A)

事業名	日本遺産に関する利便性の整備
概要	島内の二次交通、駐車場マップの作成、周遊タクシーの運行など、地域の交通条件に対応した日本遺産へのアクセスの改善を行うとともに、自然景観に配慮した山道整備や、展望所、トイレの改修などにより、来訪者の利便性を高め、滞在時間やリピーターの増加につなげる。

取組名	取組内容	実施主体
二次交通の活用による構成文化財の周遊促進	個人観光客の増加を見据え、電動アシスト付き自転車(吉岐チャリ)やレンタカー利用者に対し、窓口での日本遺産に関する情報発信を強化(パンフレットや駐車場マップの作成)し、観光客による構成文化財の周遊、利便性向上を図る。	吉岐市 吉岐市観光連盟
対馬周遊タクシー運行	金田城など公共交通機関での周遊が困難なコースを周遊するため、1/2補助による周遊タクシーを運行する。	対馬市 民間(対馬市内タクシー事業者)
自然景観等に配慮した環境整備	五島市において、大宝寺(構成文化財)など地域のトイレを改修し、バリアフリーに配慮した快適な周遊に向けた境環を整える。 新上五島町において、山王山の孝行の滝へ続く山道を自然景観に配慮し整備する。また、山頂の展望所および公衆トイレの改修を行い、来訪者の利便性の向上を図る。	五島市 新上五島町

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	3,153人
2022		5,350人
2023		4,251人
2024	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	4,540人
2025	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	4,550人
2026	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	4,620人

2027	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	4,680 人
2028	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	4,800 人
2029	電動自転車、周遊タクシーの利用者数	4,860 人
事業費	2024 年度：5,320 千円 2025 年度：5,321 千円 2026 年度：5,422 千円	
継続に向けた事業設計	<p>各岐市において、観光用電動付アシスト付き自転車の利用促進を図るとともに、駐車場マップの整備により、観光客の利便性を高め、滞在時間やリピーターの増加を図る。</p>	
事業費	2027 年度：5,433 千円 2028 年度：5,494 千円 2029 年度：5,505 千円	
継続に向けた事業設計	<p>中長期的に、各地域において、外部のデザイナーの提案や地域住民の協力を得ながら、構成文化財の保存・活用、周辺施設の整備など面的な整備を進める。</p>	

(事業番号 4 - B)

事業名	ストーリーの全体像を伝える日本遺産センター等拠点整備		
概要	<p>来訪者にストーリーの全体像を伝えるため、日本遺産コーナーに、日本遺産制度や国境の島のサブストーリー、アクセスの案内などを追加し、拠点性の強化を行う。また、「国境の島」の玄関口である空港、港湾においてデジタルサイネージなどを活用し、日本遺産のストーリーや構成文化財を紹介するとともに、インバウンド対応として、多言語パンフレットの配置や看板整備などを行う。</p>		
	取組名	取組内容	実施主体
	日本遺産コーナーの拠点機能の強化	<p>前計画において、各岐市の一支国博物館、対馬観光物産センター、五島市の五島観光歴史資料館、新上五島町の鯨賓館に、国境の島全体のストーリーがわかる「日本遺産コーナー」を整備した。これらの日本遺産コーナーにおいて、さらに、日本遺産制度や県内の他の日本遺産、サブストーリーの展示などを加え、全体ストーリーや構成文化財、アクセスなどがわかる場所としての拠点機能を強化する。</p> <p>(例) 五島観光歴史資料館の日本遺産関連展示コーナー(遣唐使、倭寇)において他の構成自治体の文化財についても紹介するパネルを設置。</p>	各岐市 対馬市 五島市 新上五島町
	タッチポイントゲートウェイにおける整備	<p>各岐市の各岐空港、郷ノ浦港、芦辺港、対馬市の対馬空港、厳原港、上対馬港において、メニュースタンド等によって日本遺産のストーリーや構成文化財の解説を行っており、今後、対馬市においては、対馬市所在のものを中心とした内容であることから、全体像の解説を追加する。</p> <p>また、福江港及び福江空港において、デジタル</p>	各岐市 対馬市 五島市 新上五島町

		サイネージ等を活用し日本遺産や市内構成文化財を紹介する。新上五島においては、有川港、奈良尾港などに説明版を設置し、日本遺産ストーリーの理解促進、構成文化財への誘導を行う。多言語化については、ALTに依頼。	
	インバウンドを対象とした日本遺産理解促進事業	前計画期間に、観光庁による多言語化整備支援事業を受け、外国人の取材、執筆により、「国境の島」のストーリー及び構成文化財について、わかりやすく解説した英語、中国語(簡体字)によるパンフレットを作成した。今後、中国語(繁体字)、韓国語のパンフレットを作成し、英語、中国語と併せて、空港、港湾や主要構成文化財に配置する。また、外国人の目線からわかりやすい、これらの英・中・韓の解説文を活用し、構成文化財等説明板の多言語化整備を行う。	協議会
	一支国博物館多言語音声ガイドの活用	日本遺産を含む一支国博物館の展示において、令和5年度に整備した多言語音声ガイドを活用し、ギャラリートークを行うなど外国人観光客の利便性および満足度向上を図る。	壱岐市
	対馬の歴史探訪パスポートの多言語	R5年度より販売を開始した対馬の歴史探訪パスポート(金石城周辺施設周遊チケット)について、パスポート対象施設や対馬市国際交流協会釜山事務所等への聞き取りを踏まえ、多言語化を行い、韓国をはじめインバウンド向けの発信、利便性の向上を図る。	対馬市関係団体(対馬観光物産協会)
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	日本遺産コーナーの開設内容のNPC(知人にお薦めする可能性の割合)		データ無
2022			"
2023			"
2024	日本遺産コーナーの開設内容のNPC		50%
2025	日本遺産コーナーの開設内容のNPC		52%
2026	日本遺産コーナーの開設内容のNPC		54%
2027	日本遺産コーナーの開設内容のNPC		56%
2028	日本遺産コーナーの開設内容のNPC		58%
2029	日本遺産コーナーの開設内容のNPC		60%
事業費		2024年度:400千円 2025年度:300千円 2026年度:300千円	
継続に向けた事業設計		「国境の島」の玄関口である空港、港湾などのターミナル施設、観光客がまず最初に訪れる文化・観光施設に設置した「日本遺産コーナー」において、施設管理者の協力を得ながら、ストーリーや構成文化財を紹介するパネル、デジタルサイネージなどを整備する。	

事業費	2027年度：300千円　2028年度：300千円　2029年度：300千円
継続に向けた事業設計	併せて、観光庁の多言語化整備支援事業を活用し、外国人の目線を重視して作成した日本遺産の解説文（英・中・韓）を基に、多言語パンフレットをゲートウェイや拠点施設に配置し、また構成文化財の説明版の多言語化に活用するなどインバウンドに対応できる機能整備を行う。

(事業番号4 - C)

事業名	調査研究成果を活用したサブストーリーの磨き上げ
概要	「国境の島」のストーリーを支えるサブストーリーとしてさらに深く魅力あるものとするため、吉岐・対馬・五島において「しまの遺跡探究事業」、原の辻遺跡をはじめ吉岐の主要な弥生時代の遺跡群に焦点を当てた「弥生集落遺跡発掘調査事業」、日島の石塔群など体験や観光に活用できる構成文化財を抽出した調査を行い、調査研究や観光事業化を通じた交流人口、関係人口の増加、地域愛着の形成などにつなげる。

	取組名	取組内容	実施主体
	「しまの遺跡の魅力」探求事業（遺跡及び関連する遺跡の発掘調査）	構成文化財である原の辻遺跡における重要遺構の確認や特別史跡追加指定の基礎資料を得るための発掘調査、対馬地区や五島地区での関連する遺跡の発掘調査を実施する。調査結果については、現地での巡回遺跡展や講演会を開催し、サブストーリーの磨き上げを行う。また、発掘調査の成果は報告書等を通じて広く公開し、一支国博物館の展示や遺跡の復元等に活用し、来訪者の増加や滞在時間の拡大につなげる。	長崎県埋蔵文化財センター
	弥生集落遺跡発掘調査事業	一支国を構成する原の辻遺跡・カラカミ遺跡・車出遺跡群の発掘調査を実施し、対外交流の拠点として栄えた一支国の実態を解明していく	吉岐市
	調査研究によるサブストーリー化・活用事業	対馬市では、発掘調査済である金石城お台所門の調査を実施し、整備について検討を進める。吉岐・対馬を経路とした元寇についての調査、大陸や関西との交易の証となる日島の石塔群など、体験や観光に活用できる構成文化財を抽出（継続調査を含む）し、大学、博物館、有識者と連携した歴史的・文化的な情報の収集・整理を行い、ストーリーを支えるサブストーリーとして、地域内外の人にその魅力を伝え、地域の愛着心醸成、観光事業への活用などにつなげる。新上五島町においては、2024年度より高崎経済大学より有識者を招聘し山王山の伝承等に関する聞き取り調査を予定。以後毎年1件ずつ構成文化財の調査研究を進める。	学芸文化課 対馬市 新上五島町

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	サブストーリーの作成数	1件
2022		1件
2023		1件
2024	サブストーリーの作成数	2件
2025	サブストーリーの作成数	2件
2026	サブストーリーの作成数	2件
2027	サブストーリーの作成数	2件
2028	サブストーリーの作成数	2件
2029	サブストーリーの作成数	2件
事業費	2024年度：1,553万円　2025年度：528万円　2026年度：578万円	
14 継続に向けた事業設計	2024年度までは壱岐・対馬・五島において「しまの遺跡の魅力」探究事業を当該市町とも連携し、調査結果は遺跡展や講演会などを通じて公開し、さらに深く魅力あるものとして磨き上げる。	
事業費	2027年度：529万円　2028年度：629万円　2029年度：529万円	
継続に向けた事業設計	磨き上げられた文化資源を、「国境の島」のストーリーを支えるサブストーリーとして組み立て発信し、地域の歴史文化への理解促進、愛着心の醸成、体験コンテンツ創造、新たな切り口でのツアー造成など、地域活性化及び観光振興に役立てる。構成文化財の価値を深掘りする事により、地域ガイド等の利用を促し、地域の活性化を図る。	

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5 - A)

事業名	関係機関が連携したツアー販売、ガイド育成		
概要	日本遺産のストーリーを体験してもらう事業により、しまに経済効果を生み出していくため、自治体、観光連盟、旅行事業者が連携して、日本遺産を含む旅行商品を造成するとともに、質の高いガイドサービスを提供し、歴史文化に興味の深い旅行者や個人旅行者などの満足度を高め、リピーター確保につなげるため、長崎コンシェルジュ認定制度や地域の研修を通じて、継続的にガイド研修を実施する。		
	取組名	取組内容	実施主体
	しま旅滞在促進事業	壱岐・対馬・五島列島において、県、県観光連盟、旅行事業者が連携して、日本遺産を含む、しまの体験プランを組み込んだ宿泊旅行や、しまの体験クーポン付き往復乗船券など魅力的な旅行商品を造成、販売し、「国境の島」への誘客拡大を実現する。	長崎県 県観光連盟 旅行事業者
	旅行商品造成(五島)事業	五島市に2泊以上滞在する旅行商品(1商品20名以上の送客)を造成し、五島市をPRする。この旅行商品のコースに、日本遺産を組み込み、世界遺産、ジオパークと併せて周遊することにより、歴史・文化・自然をまたがって、雄大な国境の島ならではの時間・空間を体感してもらう。	五島市
	長崎コンシェルジュ推進事業	観光客が県内の宿泊施設に滞在する間、快適に過ごし満足できるサービスを提供し、長崎県ならではの魅力を伝えることができるプロフェッショナル人材を育成するため、長崎コンシェルジュ認定試験を行っており、その勉強会に日本遺産講座や構成市町観光講座を設け、離島市町からの認定者の増加を目指す。	長崎県 県観光連盟
	日本遺産ガイド育成	壱岐市において、2022年度に制作した「国境の島」かたりべ原稿、マニュアル、DVDテキストを活用し、ガイド育成セミナー等を実施し、参加者同士でのガイド力向上、指名を得るような個性の磨き上げを行う。	壱岐市
	観光ガイド養成講座	街歩き(金石城、万松院等)と城(金田城、清水山城)が人気の観光素材であるが、コースありきのガイドではなく、ガイド自身が一つの観光コンテンツとなりうるようなガイド養成を目指し、講座を実施する。	対馬市

歴史文化ガイド育成	既存の観光ガイドを対象に、日本遺産についての勉強会や講習会を実施し、知識を深めてもらい、世界遺産(潜伏キリシタン)やジオパーク関連と組み合わせながら五島ならではの「国境の島」の魅力発信を行う。	五島列島おもてなし協議会
観光ガイド育成	自治体、(一社)観光物産協会、地域の観光関係事業者及び日本遺産関係者、五島列島おもてなし協議会と連携し、日本遺産の講習会や勉強会を実施する。	新上五島町関係団体

年度	事業評価指標	実績値・目標値
2021	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	11,832 人泊
2022		67,553 人泊
2023		69,280 人泊
2024	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	82,904 人泊
2025	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	82,904 人泊
2026	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	82,904 人泊
2027	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	82,904 人泊
2028	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	82,904 人泊
2029	日本遺産を含むしま旅行商品の延べ宿泊者数	82,904 人泊

事業費 2024 年度：8,762 万 2025 年度：8,762 万円 2026 年度：8,762 万円

継続に向けた事業設計 「有人国境離島法」に基づく特定有人国境離島地域社会維持推進交付金を活用し、旅行会社へのプロモーションにおける日本遺産についての説明し、対馬・壱岐・五島列島に1泊し、「しま」ならではの体験を行うことなどを条件とした旅行商品造成への支援を実施する。また、毎年度、事業評価を行い、カスタマージャーニー(顧客の視点)を取り入れながら、継続的に事業を実施していくなど、関係機関が連携して魅力的かつ多彩な旅行商品化に取り組む。

事業費 2027 年度：8,762 万 2028 年度：8,762 万円 2029 年度：8,762 万円

継続に向けた事業設計 ガイド育成においては、長崎コンシェルジュ認定試験などにより、おもてなしのプロフェッショナルとして、また、各地域のガイド研修において、令和5年度に開催したシンポジウムの結果をまとめたDVD等をテキストにするとともに、有識者を交えた現地研修を行い、日本遺産の魅力を十分伝えることができる人材を育てていく。

(事業番号5-B)

事業名	体験コンテンツ、商品開発
概要	古代体験プログラムや周遊ルート形成、トレッキング、修学旅行誘致など、大陸との交流や絆が感じられる「国境の島」のストーリーや文化資源を磨き上げ、収益性のある体験コンテンツとしての事業化と情報発信、販路開拓を行い、各階層が希求するストーリー体験を提供、満足度の向上により、歴史ファンの獲得、リピーターの増加につなげる。

	取組名	取組内容	実施主体
	古代体験プログラムの磨き上げ及び商品化	<p>原の辻ガイドランスでの火起こし体験やあわび蒸し体験、一支国王都復元公園内の物見櫓に登る体験等のさらに磨き上げを行うことで旅行商品として確立し、販売促進を図る。</p> <p>吉岐の史跡バスツアー、NPO一支國研究会の内海湾関係事業(古代体験、古代米の収穫、牡蠣バーガー、一支国シーカヤック体験、にっぼん丸ツアーなど)</p>	吉岐市 NPO一支國研究会
	観光地・日本遺産認定地との周遊ルート形成	<p>五島列島における広域周遊ルートの形成、ツアー造成等の情報を、関東、関西向けに発信し、周遊を促す。日本遺産を含む地域の魅力を活かしサイクリング等の滞在型コンテンツ開発を進める。五島市、新上五島町、小値賀町を巡るテストツアーやワークショップを実施し、個人観光客をメインターゲットとした受け入れ環境整備を図る。情報発信の手段として五島列島への誘客促進のため福岡・長崎の情報誌に体験プログラムを掲載するほか、旅前・旅中の観光客向けに市内フリーペーパーやインターネット・SNSでも情報発信を行う。</p>	五島列島おもてなし協議会
	日本遺産トレッキングコース事業	<p>日本遺産「国境の島」の構成文化財の1つである、「伝教大師最澄ゆかりの山王信仰」がある山王山にトレッキングできるコースを設定するとともにあわせてガイドの育成とコース活用の為の情報発信を行う。コース設定後、旅行業者へのファミツアーの実施や、コース利用の為の情報発信を行う。ガイド団体(既存の団体)への講習会を実施する。新上五島町</p>	新上五島町
	伝教大使最澄ゆかりの山王山に関するうどん製品開発	<p>住民団体である「日本遺産山王山の自然と文化を守る会」が主体となり商品の開発と販路開拓を行っている。将来的には商品の売上げにより、山王山の保全を自走できる仕組みを目指す。</p>	日本遺産山王山の自然と文化を守る会
	民間による体験事業化	<p>オリエンタルエアブリッジ(株)では、離島航空路線の利用と誘客を促進するため、「国境の島」をメディアに情報発信し、取材費等を支援するとともに、島内での体験事業と連携した各種キャンペーンを実施する。また、五島産業汽船(株)では、新上五島町の「日島の石塔群」や「山王山」等の構成文化財を活用したデジタルスタンプラ</p>	ORC 五島産業汽船など

		リーや、海上から構成文化財にアプローチするツアーを実施するなど、「国境の島」ならではの体験コンテンツを企画提供しており、こうした民間が主体となった事業化を促進していく。	
	修学旅行誘致	国境の島対馬の歴史・自然を体験する修学旅行を誘致する。日本遺産構成資産としては金石城周辺、金田城などをめぐる。	関係団体 (一社)対馬里山経営塾
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		2,893 千円
2022			4,248 千円
2023			3,035 千円
2024	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		5,000 千円
2025	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		5,425 千円
2026	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		5,625 千円
2027	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		5,850 千円
2028	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		6,050 千円
2029	体験コンテンツ、ストーリー関連商品の売上数		6,275 千円
事業費	2024 年度：5,000 千円 2025 年度：5,425 千円 2026 年度：5,625 千円		
継続に向けた事業設計	ワーキング会議の提案等を参考に、民間事業者が中心となって、地域コンテンツの創造、商品開発、販路開拓に取り組む。協議会及び各市町においては、ストーリーや文化資源の付加価値を高め、商品化しやすいように調査研究や磨き上げを行う。		
事業費	2027 年度：5,850 千円 2028 年度：6,050 千円 2029 年度：6,275 千円		
継続に向けた事業設計	首都圏及び福岡を中心に、特に歴史好きなどのターゲットを絞ったテーマ性のある情報発信を行うとともに、日本遺産関係の商品造成やガイド育成を通じて観光客の満足度向上を図る。日本遺産をトレッキング等のアクティビティとしての活用を促進する事により、文化財以上の魅力を発信し交流人口の増加を図る。		

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6 - A)

事業名	学校教育と連携したふるさと教育		
概要	地域の小中学生、高校生が、日本遺産に触れることでストーリーや文化財の価値を理解し、地域の誇りに思えるよう、学校教育において、発掘調査の成果を活かした学びや、博物館等と連携した体験授業、出前授業、フィールドワークなどを実施する。また、全国から募集する高校生の離島留学制度において、歴史学、考古学、語学の専門的な授業を通じて、「国境の島」の歴史について広く理解促進を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
	「しまの遺跡の魅力」探究事業による学習支援事業	次世代を担う子どもたちに、壱岐・対馬・五島において実施された大陸との交流の歴史を示す遺跡の発掘調査「しまの遺跡の魅力」探究事業の成果をもとに、学校教育と連携して、埋蔵文化財に関する出前授業や遺跡フォーラムを行い、日本遺産の理解促進、郷土愛の育成につなげる。	長崎県埋蔵文化財センター
	副読本「国境のひみつ」の配付によるふるさと教育	子どもたちへの日本遺産理解促進のため、副読本「『国境の島』のひみつ」を中学生全員に配付し、日本遺産を中心とした歴史を紹介するふるさと教育を実施することで地域に対する誇りと愛着を育む。	関係市町
	日本遺産原の辻遺跡普及啓発イベントの実施	国特別史跡原の辻遺跡を活用したイベントを年間12回開催し、原の辻遺跡を広く周知することを目的とし、イベントは歴史や文化(民俗芸能を含む)をテーマにした内容で構成し、見るだけでなく、五感で楽しむコンテンツによって、学校教育での活用をはじめ、老若男女を問わない持続可能な内容で国境の島に対する理解促進を図る。	壱岐市
	つしまっこ郷土読本の配布	対馬市内小学生(5年生)を対象につしまっこ郷土読本を配布し、郷土史の理解を深める。	対馬市
	日本遺産講座	五島市出前講座のプログラムに「日本遺産『国境の島』について学ぶ講座」を追加。主に中学高校生の授業で日本遺産制度や市内構成文化財について座学及び現地で解説し、ジオパーク講座の中でも構成文化財や関連史跡について解説することで国境の島への理解を深める。また、参加者への理解度を図るためのアンケート調査を実施する。	五島市

	ふるさと教育	町内の小中高校生を対象に、伝教大師最澄ゆかりの山王山などの構成文化財をテーマに、フィールドワーク等や座学による日本遺産学習を実施する。	新上五島町
	離島留学制度	長崎県独自の制度である離島留学生制度において、県内及び全国から募った高校生を対象に、壱岐高校では東アジア・歴史・中国語コース、対馬高校では国際文化交流科を設け、文化大学や県埋蔵文化財センターなどと連携し、歴史学、考古学、中国語、韓国語などの専門的な授業が行われており、このような取組を通じて「国境の島」についての理解を深め、国を超えた歴史文化の相互理解につなげる。	長崎県
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	出前授業、体験授業等における日本遺産のストーリーの理解度		80%
2022			82%
2023			82%
2024		〃	85%
2025		〃	85%
2026		〃	85%
2027		〃	85%
2028		〃	85%
2029		〃	85%
事業費	2024年度：2,316万円 2025年度：1,316万円 2026年度：1,292万円		
継続に向けた事業設計	協議会（各市町部会）と各市町教育委員会、博物館等が連携し、出前授業や体験授業、総合学習など義務教育の中で、日本遺産のストーリーや構成文化財を学ぶ機会を設けてもらう。協議会においては、冊子「国境のひみつ」を中学在学中に必ず手にすることができるよう配布するほか、各種パンフレット、歴史を深掘りした本、映像の提供を行う。		
事業費	2027年度：1,307万円 2028年度：1,291万円 2029年度：1,307万円		
継続に向けた事業設計	長崎県埋蔵文化財センターでは、長崎県立壱岐高校歴史学コースに対する授業支援を継続的に実施しており、進路実現に活かすなど一定の成果が表れている。埋蔵文化財の発掘現場の見学や、離島留学制度など、「国境の島」ならではの普及啓発事業を通じて、次代を担う若者に対し、ふるさとへのより深い愛着心を醸成する取組を進め、長崎県教委が推奨するふるさと教育の一層の推進にも寄与する。		

(事業番号 6 - B)

事業名	地域住民への普及啓発		
概要	地域住民が日本遺産のストーリーを理解し、親しみと誇りを感じてもらえるよう、「日本遺産の日」にちなんだパネル展（巡回展）、発掘現場の公開、調査結果を活用した講座、体験事業、絵画や万葉の歌をテーマとしたイベント、シンポジウムなど、多彩な普及啓発事業を継続的に実施し、主体的な取組への意欲向上を図り、担い手確保につなげていく。		
	取組名	取組内容	実施主体
	日本遺産巡回パネル展	日本遺産の日にちなみ、パネル、映像、パンフレット等により、「国境の島」をはじめ長崎県内の日本遺産の制度と各ストーリー、文化財について分かりやすく説明するパネル展を県庁で実施し、各市町の拠点施設へ巡回することにより、日本遺産の認知度向上とシビックプライドの醸成につなげる。	協議会
	発掘調査成果を活用した普及啓発事業	「しまの遺跡の魅力」探究事業をはじめ構成文化財の発掘調査を実施し、調査結果については現地説明会や、広報資料による公開、SNSでの発信を行い、日本遺産の理解促進、郷土愛の育成につなげる。また、一支国博物館主催で、復元建物内における一支国歴史講座、公園ガイド、NPO一支國研究会による古代米づくり体験、歴史を健康的に学ぶことができる原の辻ウォークなど多彩なイベントを通じて、日本遺産の理解を深め、シビックプライドの醸成に努める。	長崎県埋蔵文化財センター 壱岐市 一支国博物館 NPO一支國研究会
	朝鮮通信使絵画展の実施	対馬市内の全小学生を対象に、朝鮮通信使の絵を募集し、展示会を実施し、優秀作品については、パンフレットなどにも活用し、地域全体の普及啓発に活用するとともに、韓国の子供たちとも絵画を通じた交流を企画し、時期世代に対し、若いうちから友好交流の意識の醸成を図る、	対馬市、関係団体(対馬ロータリークラブ)
	三井楽万葉まつりの開催	万葉まつりの開催を通して遣唐使ゆかりの地として歴史的に意義深く、名勝「みみらくのしま」等景観も素晴らしい三井楽町の魅力を全国に向けて発信し、交流人口の拡大を図る。	三井楽万葉まつり実行委員会
	日本遺産企画展の開催	五島観光歴史資料館において日本遺産「国境の島」に関する企画展を実施し、市民はもとより島外からの観光客に周知する。	五島市
	遣唐使関連出前講座	鯨賓館ミュージアムの職員による日本遺産のストーリー、及び山王山をはじめ遣唐使ゆかりの構成文化財についての出前講座を実施し、地域	新上五島町

		の誇りとして、歴史的ゆかりのある他地域との交流事業などにつなげる。	
	青少年国際交流事業	長崎県内在住の国内外出身の若者を対象にした国際交流会を実施し、日本遺産関連史跡・博物館等のフィールドワークやグループワークなどを通して、日本遺産への理解を深めるとともに、友好交流の促進につなげる。	県
	旅する長崎学講座	本県の全国や世界に誇ることができる素晴らしい歴史・文化を、県内外へ広く発信し、交流人口の拡大につなげていくための「旅する長崎学講座」において、「国境の島」をテーマにした講座を開催し、リアル開催に加え、オンライン形式で実施することにより、県内はもとより、県外へも広く日本遺産のストーリーと文化財の魅力を発信し、普及啓発と地域への愛着心醸成、交流人口、関係人口の増加につなげる。	協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	出前講座等における日本遺産のストーリーの理解度		75%
2022			87%
2023			78%
2024		〃	80%
2025		〃	81%
2026		〃	82%
2027		〃	83%
2028		〃	84%
2029		〃	85%
事業費	2024年度：1,985万円　2025年度：961万円　2026年度：961万円		
継続に向けた事業設計	県埋蔵文化財センターにおいて、壱岐・対馬・五島を対象に大陸との交流の歴史を示す遺跡の発掘調査(しまの遺跡の魅力)探究事業を実施し、当調査と連携し、発掘調査期間中の現地説明会の実施や、調査成果の広報資料による公開、SNSでの発信を行い、地域住民の日本遺産の理解促進や郷土愛の育成につなげる。		
事業費	2027年度：96万円　2028年度：961万円　2029年度：961万円		
継続に向けた事業設計	万葉集には、三井楽のほか、対馬の防人関連の歌も掲載されており、歌を介した「国境の島」全体の魅力発信につながるとともに、万葉集とゆかりのある全国の日本遺産とも連携することにより、交流人口や関係人口の増加にも資するものとなる。こうした、新たな視点から、日本遺産のストーリーとその魅力を学習してもらうことにより、広く将来の地域プレーヤー・地域プロデューサーの育成につなげていく。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7 - A)

事業名	HP等を活用した「国境の島」の発信強化		
概要	日本遺産のストーリーや構成文化財に関する情報、地域内外の人々が史跡訪問する際に必要となる基本的な情報について、HP、SNSにより継続的に発信するとともに、メディアや雑誌社と連携した情報発信を行うため、ストーリーの魅力や旬の情報についてプロモーション活動を実施する。また、インバウンドに対応し、上海事務所、ソウル事務所を通じた国外への発信を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
	Webサイトの継続した更新	<p>「国境の島」推進協議会ウェブサイトにおいて、日本遺産に関する最新の話、イベントなどの情報発信を行うとともに、文化庁ポータルサイト、県観光振興の「旅ナビ」、県文化観光サイト「旅する長崎学」、県インバウンド向けサイト「Discover NAGASAKI」、市町のHP等を活用し、同様の発信を行うことにより、日本遺産へのタッチポイントを増やし、交流人口の拡大につなげる。</p> <p>なお、新上五島町においては、(一社)新上五島町観光物産協会に情報発信専門の職員により、当協会のホームページに日本遺産特設ページを作成し、日本遺産の内容や関連イベント情報を発信する。</p>	協議会 長崎県 新上五島町
	SNSによる継続的な発信	<p>県のブログ「GO! GO! ともっち」で日本遺産に関する話題を発信するとともに、世界的にヒットしたゲーム「ゴースト・オブ・リアル・ツシマ」やアニメ「アンゴルモア元寇戦記」、テレビドラマのロケ地について発信し、聖地巡礼の契機とするなど、構成市町のSNSにおいて、島ならではの旬の情報を発信し、交流人口、関係人口の拡大に寄与する。また、民間、団体のサイトやSNSでの積極的な情報発信により広く日本遺産についての周知啓発を図る。</p>	長崎県 関係市町 民間
	インバウンドに対応した情報発信	<p>長崎県では、上海事務所や、友好県省である福建省において日本遺産の発信を行うとともに、県ソウル事務所を通じ、韓国日韓交流おまつり in ソウルなどのイベントを通じて「国境の島」の情報発信を行い、インバウンド拡大を目指す。</p> <p>壱岐市では、外国人観光客への日本遺産情報発信および客船誘致を促進するため、壱岐市市観</p>	長崎県 壱岐市 対馬市 五島市

		<p>光課所属の国際交流員を活用し、大型客船で来島した外国人観光客に対し、日本遺産を含む壱岐の魅力についての情報発信を行う。</p> <p>対馬市では、国際交流協会釜山事務所と連携し、韓国内における対馬観光PRを実施するとともに、各種イベント参加によるPR、釜山事務所HPでのPR、韓国内での観光パンフ配布、問い合わせ対応などを行う。</p> <p>五島市では、インバウンド対策事業として、五島市の観光HP「しま旅」の多言語化を図る「観光情報多言語化整備」に取り組む。</p>	
壱岐島魅力PR・観光情報発信事業	福岡市を中心としたテレビ局・ラジオ局2つの媒体を持つ放送局の番組内において、日本遺産を含む壱岐島の観光や歴史、物産、食などの情報や魅力を定期的にPRし、「壱岐」の知名度向上及び「しま旅」への促進を図るとともに、ラジオ、テレビを活用した効果的な発信を行う。	また、首都圏におけるメディア対策強化のため、壱岐市観光ウェブサイト「壱岐観光ナビ」への集客を行い、メディア掲載との関係構築、観光ナビでの継続的な情報更新を実施する。	壱岐市
メディア・雑誌、広報媒体を活用した情報編集・発信	協議会では、県東京事務所と連携し、首都圏の旅行関係の雑誌社に対しプロモーションを行う。	壱岐市では、一支国博物館において、定期的に「一支博news」を発行し地域内外に、歴史・文化やイベント、祭り、研究成果についてわかりやすく紹介する。	協議会 壱岐市 五島市 長崎経済研究所
イベントを通じた発信	協議会では、日本遺産フェスティバル、日本遺産関連の日、ツーリズムEXPOなどでのワークショップを通じて、また、日本橋「長崎館」における物産展をはじめ東京・大阪・福岡で実施する物産展、日韓交流おまつり、その他PRイベント等において日本遺産の情報発信を行う。	壱岐市では、壱岐ウルトラマラソンのコースに	協議会 関係市町

		<p>において、走りながら国境の島を感じる事ができる仕掛けづくりを行う。また、主会場（前夜祭・表彰式）にて、日本遺産パネルを設置し、日本遺産「国境の島」の情報発信を行い、知名度向上に繋げる。</p> <p>対馬市では、日本最大級のお城の祭典、お城 E X P O に参加し、金田城 PR を実施する。また、2025 年度に開催される国民文化祭において、「対馬の万葉の和琴」と題した連携事業を実施し、日本遺産についての情報発信を行う。</p> <p>五島市では、三井楽万葉まつりの開催、新上五島町では、最澄ゆかりの山王山を通じた奈良天台宗との交流を通じて、日本遺産の魅力を全国に発信する。</p>	
年度	事業評価指標	実績値・目標値	
2021	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	58,250 回	
2022	2023 年度は 2 月末現在。アクセス回数の減は、WAF（安全性を高める機能）導入のため。	67,382 回	
2023		36,243 回	
2024	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	37,000 回	
2025	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	38,000 回	
2026	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	39,000 回	
2027	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	40,000 回	
2028	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	41,000 回	
2029	「国境の島」協議会 H P の閲覧数	42,000 回	
事業費	2024 年度：1,260 万円 2025 年度：1,260 万円 2026 年度：1,260 万円		
継続に向けた事業設計	「国境の島」H P に日本遺産に関するイベントなど新しい動きを紹介し、併せてアクセス数が多い観光関連、インバウンド、文化関連のサイトにおいても、継続的に日本遺産に関する情報発信を行う。		
事業費	2027 年度：1,260 万円 2028 年度：1,260 万円 2029 年度：1,260 万円		
継続に向けた事業設計	観光連盟等と連携しながら、多くの人が集まる観光 P R イベント物産イベント、スポーツ大会、客船入港時において、日本遺産パネルやパンフレット等を活用して、日本遺産「国境の島」について継続的に情報発信を行い、認知度向上、及び来訪者誘致につなげる。		